

No.296

鉄鋼需給四半期報

2025年7月

一般社団法人 日本鉄鋼連盟



The Japan Iron and Steel Federation

<http://www.jisf.or.jp/>

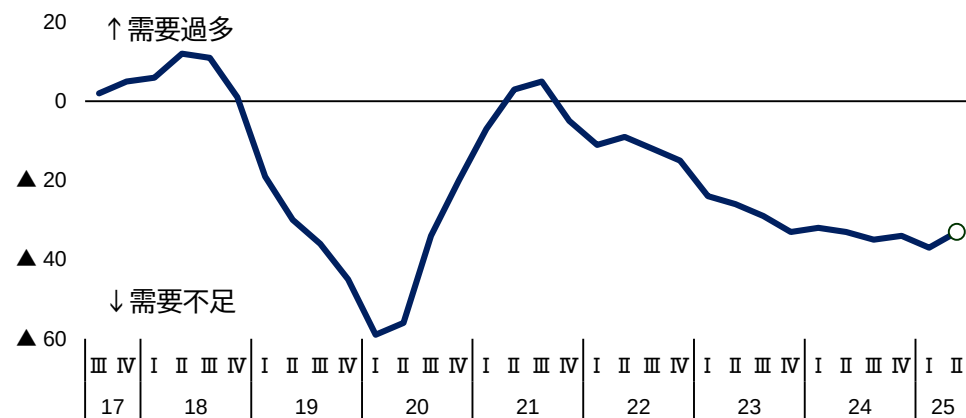
目次

1. 鉄鋼需給動向		3
1. 概要		3
2. 経済産業省見通し		4
3. 需要産業別の動向		5
4. 鉄鋼需給		12
2. 2024年度の鋼材受注動向		17
1. 概要		17
2. 輸出入動向		21
3. 設備投資と機械部門の鋼材消費		23
4. 地区別の動向		25

概要

- ・日銀短観(国内の需給判断DI／鉄鋼)では、需要不足との判断が続く。
- ・鋼材需要は、需要産業活動が総じて低調であり減少基調。米国の関税措置の行方、進まない中国の鋼材需給改善などへの懸念が続く。
- ・多くの鉄鋼メーカーが需要見合いの生産に徹する状況が続き、粗鋼生産は前年割れで推移。

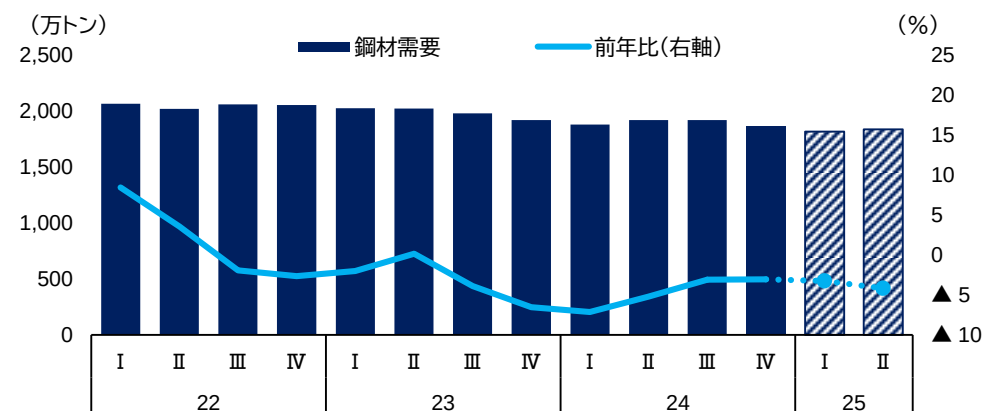
国内需給判断DI(鉄鋼)



(出所)日本銀行、最新期は見通し

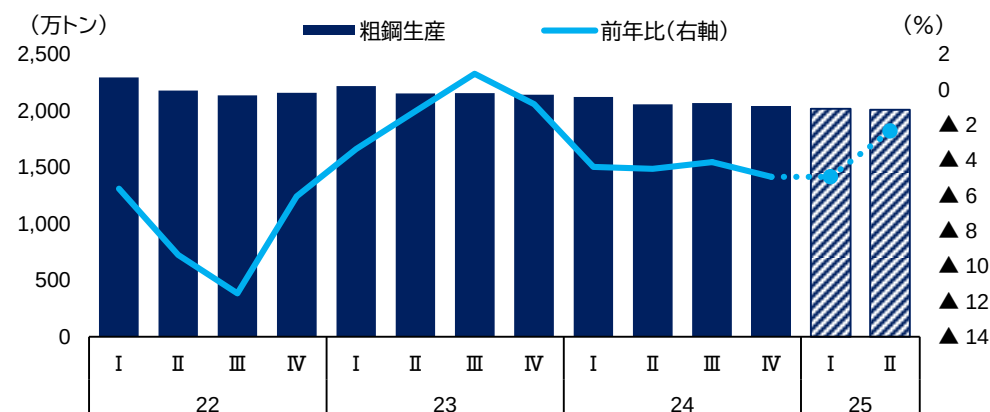
鋼材需要

■鋼材需要(内需+外需)



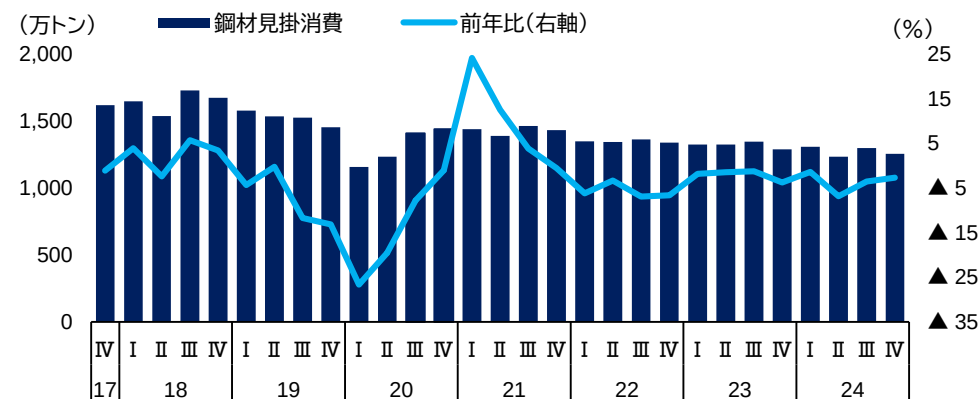
(出所)経済産業省

粗鋼生産



(出所)経済産業省

■鋼材見掛消費



(出所)経済産業省、日本鉄鋼連盟より作成

(注)鋼材見掛消費は、「鋼材国内向け出荷+鋼材輸入」で計算している。

2025年度第2四半期・経済産業省鋼材需要見通し

◇全体

- 25年度第2四半期(7～9月期)の鋼材需要量は、前年同期比4.2%減の1,838万トンの見通し。
- 国内需要は前年同期比0.2%減の1,229万トン。輸出は前年同期比11.5%減の609万トン。

◇普通鋼

- 普通鋼鋼材需要量は、前期実績見込比0.5%増、前年同期比4.8%減の1,454万トンの見通し。
- うち、国内需要が前期実績見込比1.8%増、前年同期比0.6%増の954万トン。輸出が中国での日系自動車メーカーのシェア低下、周辺地域の経済減速、日本製鋼材への通商措置の影響もあり、前期実績見込比2.0%減、前年同期比13.6%減の500万トンの見通し。米国の関税措置には引き続き注視が必要。

◇特殊鋼

- 特殊鋼鋼材需要量は、前期実績見込比3.5%増、前年同期比2.1%減の384万トンとなる見通し。
- うち、国内需要が前期実績見込比1.9%増、前年同期比2.8%減の275万トン。
- 引き続き海外需要は低調、輸出は前期実績見込比7.8%増、前年同期比0.3%減の109万トンの見通し。

◇粗鋼需要

- 粗鋼需要量は前期実績見込比0.4%減、前年同期比2.3%減の2,011万トンとなる見通し。

経済産業省・25年度Q2 鋼材需要見通し(2025年7月8日発表、左表:数量 万トン、右表:前年比増減率 %)

■内外需別

年度	24 Q2 実績	25 Q1 実績見込	25 Q2 見通し	24 Q2 実績	25 Q1 実績見込	25 Q2 見通し
鋼材需要	1,919	1,818	1,838	▲ 5.2	▲ 3.3	▲ 4.2
普通鋼	1,527	1,447	1,454	▲ 5.5	▲ 3.3	▲ 4.8
特殊鋼	392	371	384	▲ 4.2	▲ 3.2	▲ 2.1
内需	1,231	1,207	1,229	▲ 6.5	▲ 2.5	▲ 0.2
普通鋼	948	937	954	▲ 7.4	▲ 2.8	0.6
特殊鋼	283	270	275	▲ 3.6	▲ 1.5	▲ 2.8
外需	688	611	609	▲ 2.8	▲ 4.7	▲ 11.5
普通鋼	579	510	500	▲ 2.2	▲ 4.2	▲ 13.6
特殊鋼	109	101	109	▲ 5.6	▲ 7.4	▲ 0.3
粗鋼生産・需要	2,059	2,020	2,011	▲ 4.5	▲ 4.9	▲ 2.3

■部門別普通鋼内需

年度	24 Q2 実績	25 Q1 実績見込	25 Q2 見通し	24 Q2 実績	25 Q1 実績見込	25 Q2 見通し
普通鋼内需	948	937	954	▲ 7.4	▲ 2.8	0.6
建設	397	387	394	▲ 4.2	▲ 3.4	▲ 0.9
土木	137	132	136	▲ 2.0	▲ 3.1	▲ 1.0
建築	260	255	258	▲ 5.4	▲ 3.5	▲ 0.8
製造業	551	550	561	▲ 9.5	▲ 2.4	1.7
造船	77	78	80	▲ 3.8	▲ 4.8	3.2
自動車	236	237	241	▲ 8.2	▲ 1.0	1.9
産業機械	94	95	95	▲ 19.1	▲ 5.1	1.4
電気機械	59	55	59	▲ 10.5	0.0	0.3
二次製品	41	42	41	▲ 7.7	▲ 2.5	0.2
容器	21	21	21	▲ 0.9	▲ 2.4	1.4
その他	23	23	23	▲ 4.6	▲ 2.2	2.7

(出所) 経済産業省(https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/iron_and_steel/index.html)

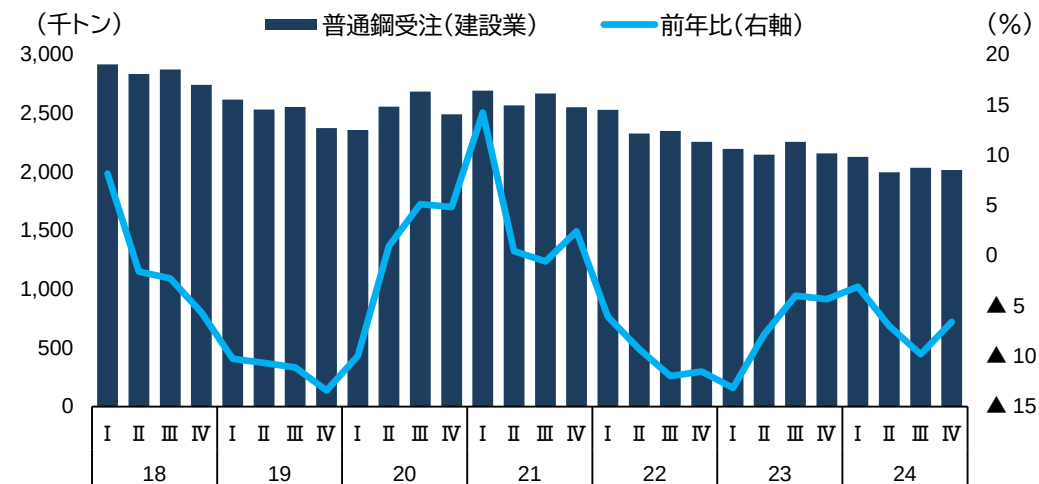
(注1)「粗鋼生産・需要」項目のうち、実績値は粗鋼生産量、見通しの数字は「出荷等相当粗鋼需要量」。

(注2)数量は、需要関連統計等を基に推計。

普通鋼需要動向

建設業

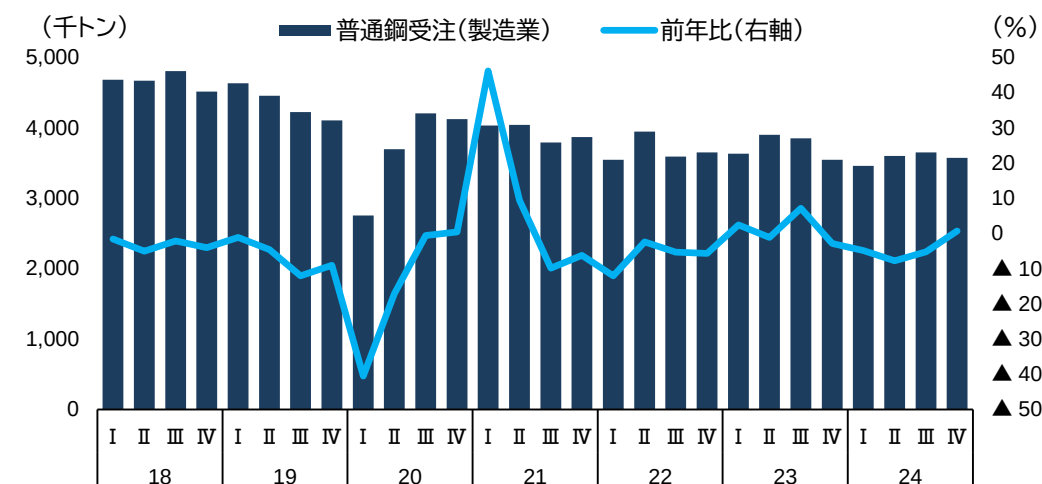
普通鋼受注(建設業)



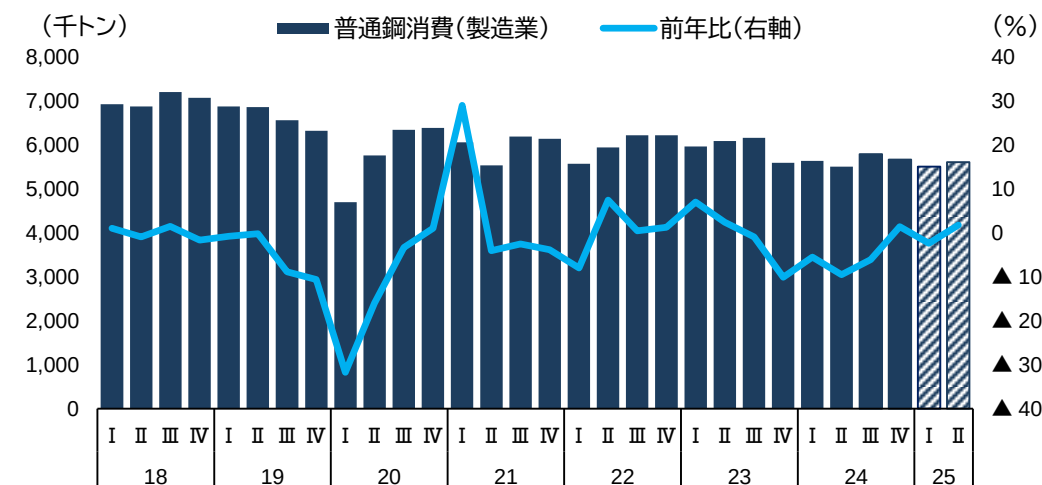
(出所)日本鉄鋼連盟

製造業

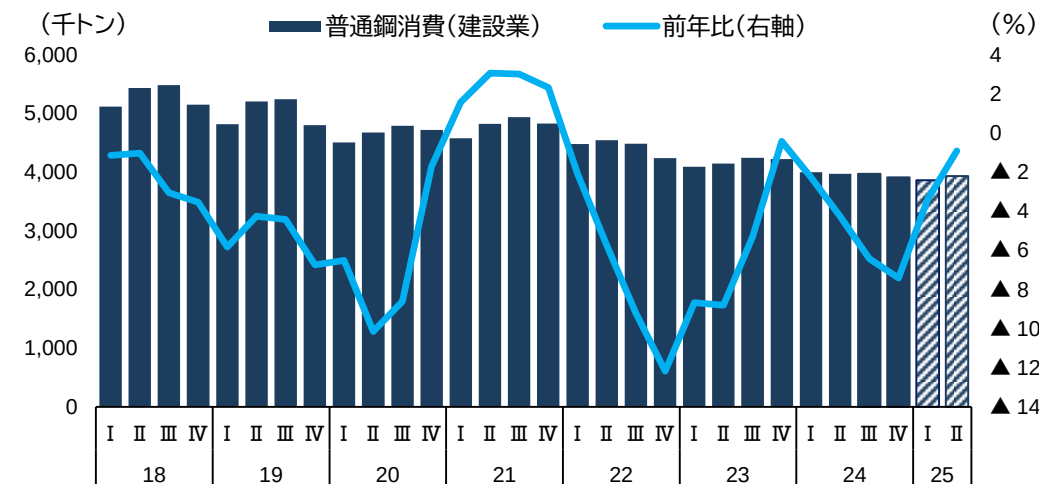
普通鋼受注(製造業)



普通鋼鋼材消費(製造業)



普通鋼鋼材消費(建設業)



(出所)経済産業省

土木部門

■公共土木

<足元の動向>

- 一般公共事業予算や国土強靱化予算は前年とほぼ同水準。防災・インフラ老朽化対策や地方活性化に重点が置かれている。

<見通し>

- 予算は前年並みの水準も、人手不足のほか労務費・資材費の高騰を背景に、鋼材消費は前年比で減少する見通し。

■民間土木

<足元の動向>

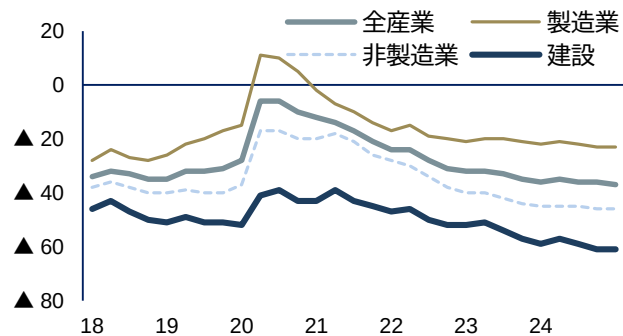
- 民間土木受注額は、都市部での再開発や高い設備投資意欲を背景に前年比増加。

<見通し>

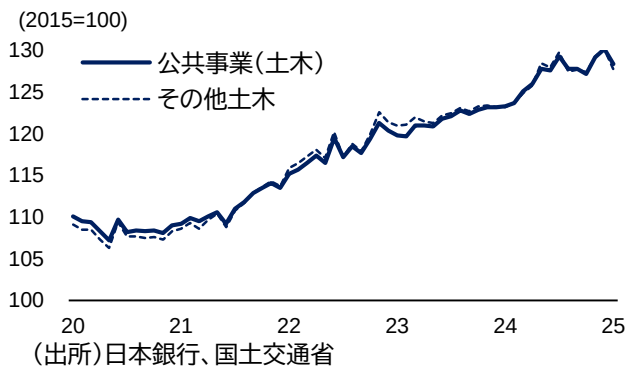
- 鋼材消費量は低調が継続も、前年が低水準であったことから、前年同期比では増加が見込まれる。

雇用・工事費指標

雇用人員判断DI

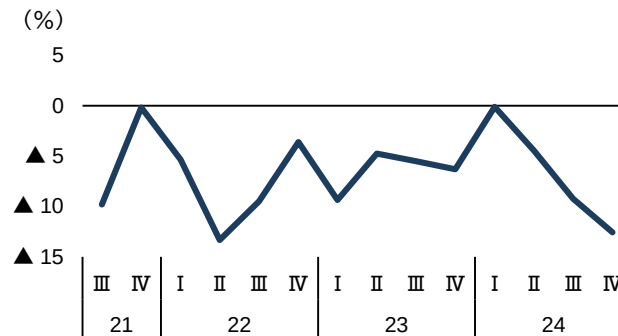


建設工事費デフレーター

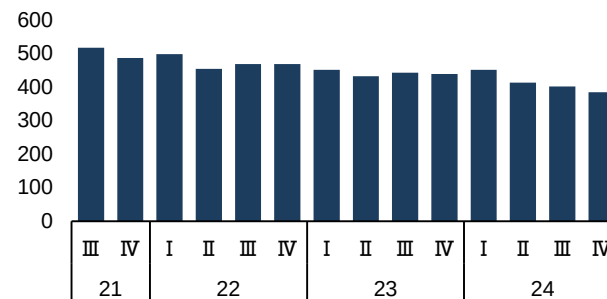


普通鋼鋼材受注

前年比



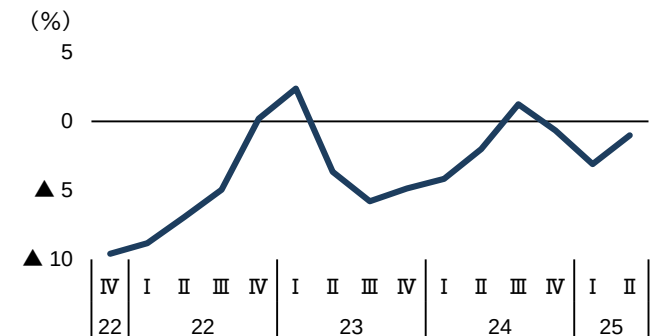
(千トン)



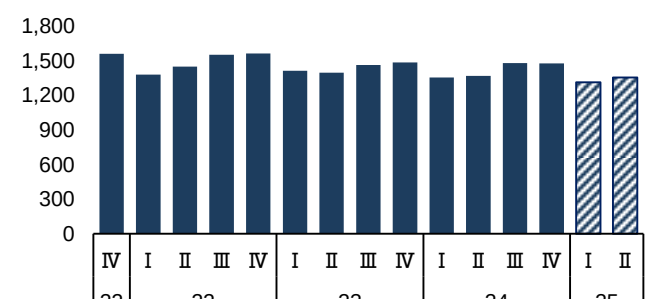
(出所) 日本鉄鋼連盟

普通鋼鋼材消費

前年比



(千トン)



(出所) 経済産業省

建築部門

■住宅

<持家>

- 都市部の大型マンションは底堅いものの、建築コストの上昇のほか、住宅所得マインドの低下等により、戸建て住宅は低調に推移。

<貸家>

- 人件費含む建設コストの上昇、金利の先行き不透明感による投資意欲の減少等の下押し要因の影響が懸念。

<分譲>

- 需要環境に大きな変化はなく、持家・貸家と同要因の影響が懸念。

■非住宅

<鉱工業用>

- 設備投資意欲は旺盛ではあるが、人手不足・資材高による工事の見直し・先延ばしの影響続く。

<運輸業用>

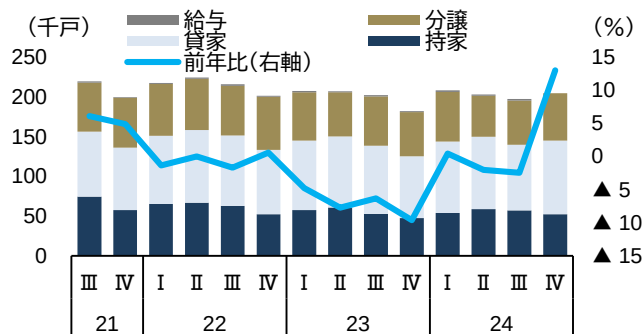
- これまで堅調だった倉庫需要が一巡。

<商業サービス用>

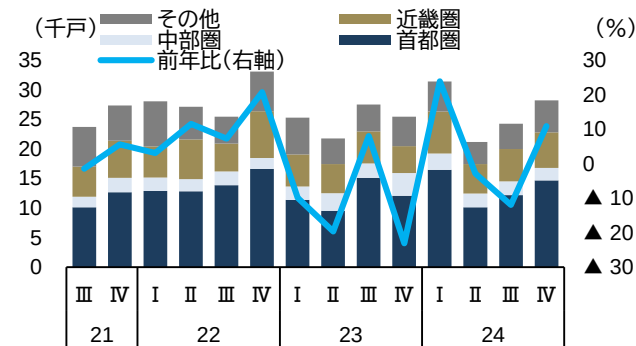
- オフィス需要やインバウンドによる宿泊施設等に潜在的な需要はある一方、中小案件を中心に計画見直し・中止がみられる。

住宅関連指標

新設住宅着工戸数(利用関係別)



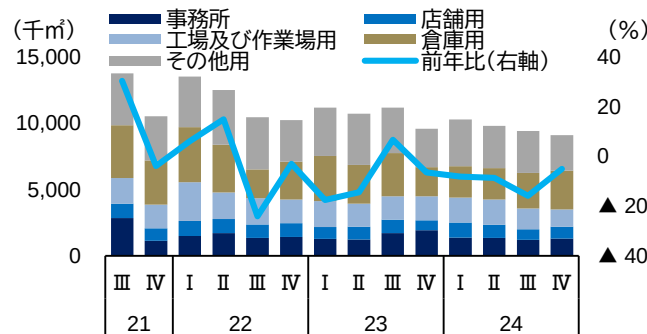
新設マンション着工戸数(地域別)



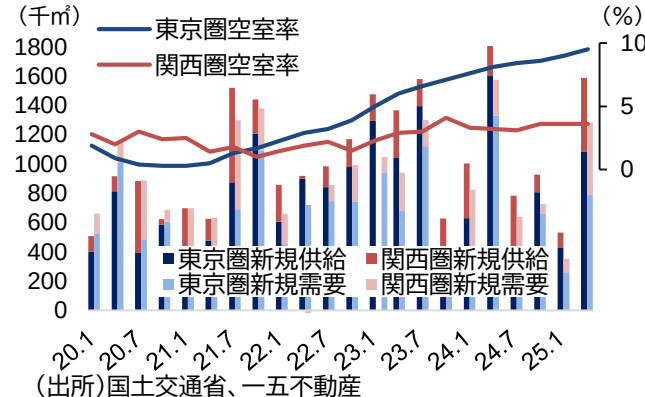
(出所)国土交通省

非住宅関連指標

非住宅着工床面積(使途別)

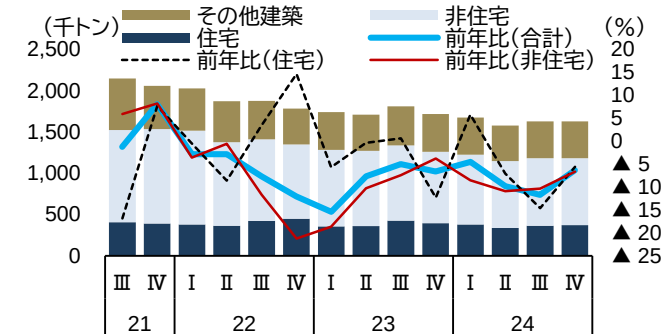


倉庫空室率

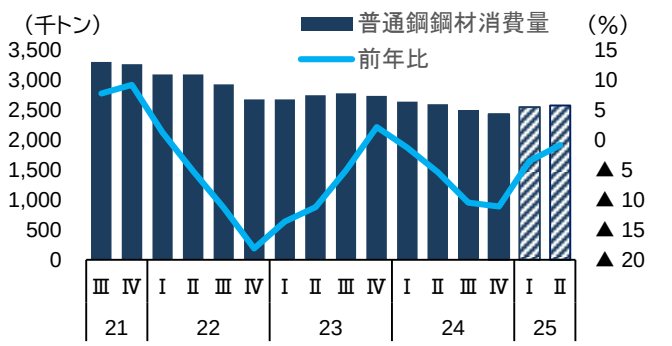


普通鋼鋼材需要

普通鋼鋼材受注(建築)



普通鋼鋼材消費(建築)



(出所)日本鉄鋼連盟、経済産業省

造船部門

足元の動向

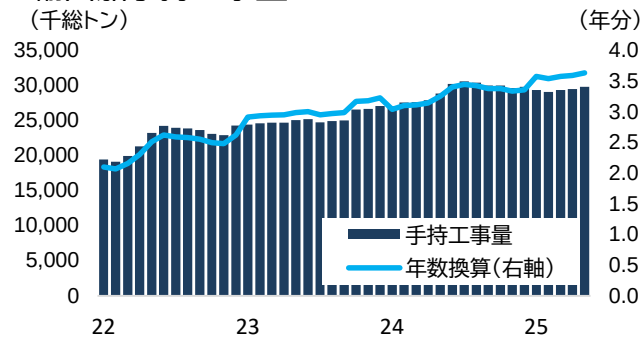
- 新造船受注が堅調な一方で、設計人員・現場労働力の人手不足や労働規制の影響などから建造量は前年並みで推移。

見通し

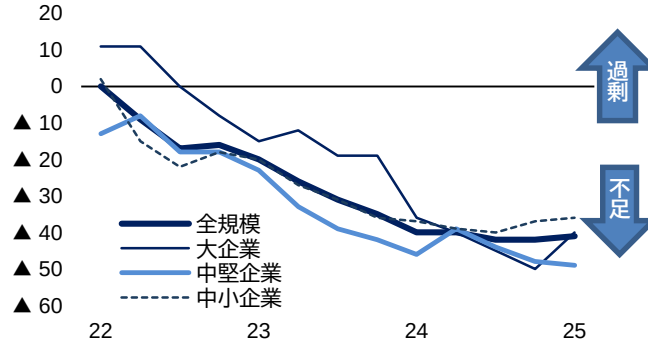
- 同様の傾向が続き、25年度の起工、鋼材消費はともに前年割れの見通し。

造船関連指標

輸出船手持工事量
(千総トン)



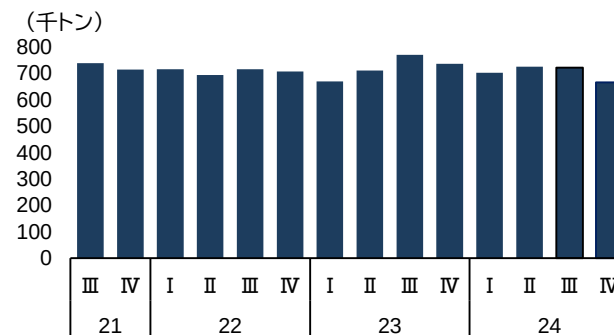
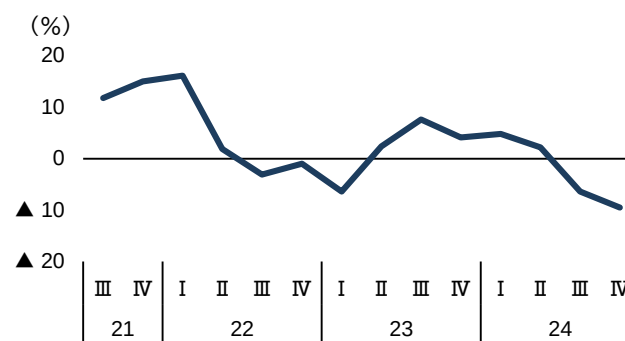
雇用人員判断DI



(出所)日本船舶輸出組合、日本銀行
(注1)手持工事量の年数換算は、手持工事量を前年度の輸出通関量で割ったもの。
(注2)雇用人員判断DIは、「造船・重機、その他輸送用機械」の数値。

普通鋼鋼材受注

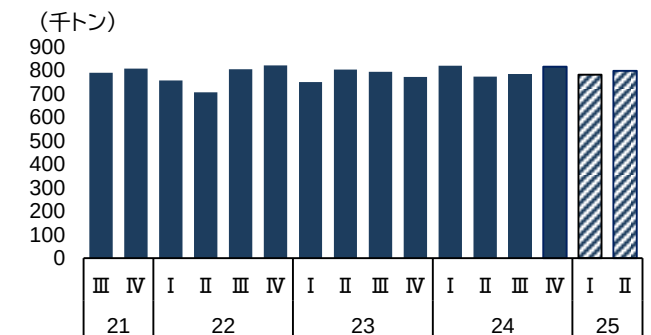
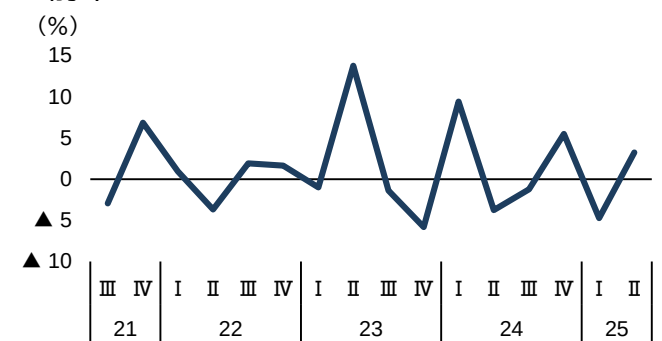
前年比



(出所)日本鉄鋼連盟

普通鋼鋼材消費

前年比



(出所)経済産業省

自動車部門

足元の動向

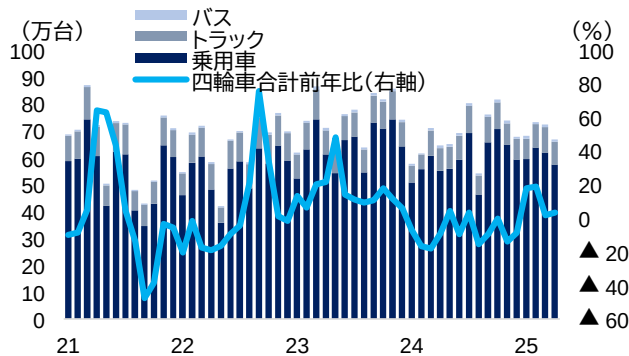
- 完成車生産は生産体制が正常化したものの、販売環境は芳しくなく、勢いを欠く状況が続く。
- KDセットは中国での日系メーカーのシェア低下、東南アジアでの需要減も継続。

見通し

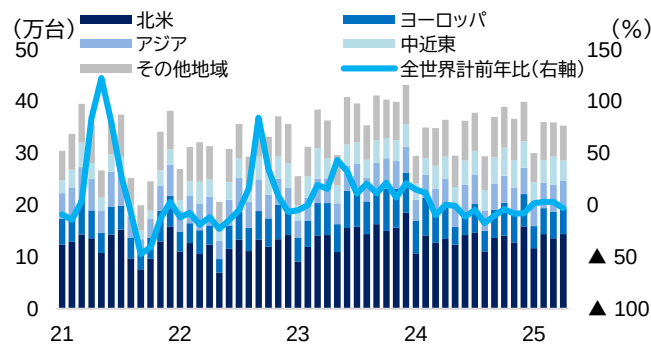
- 完成車は、日系メーカー車の国内外の需要減を背景に、生産台数は前年比減少の見込み。
- KDセットは、中国EV市場でのシェア低下、タイでのローン審査厳格化等の影響が懸念されるなか、前年度微増に止まる見込み。
- 内外需ともに盛り上がりを欠き、第2四半期の鋼材消費は前年から微増となる見込み。

自動車関連指標

四輪車生産台数



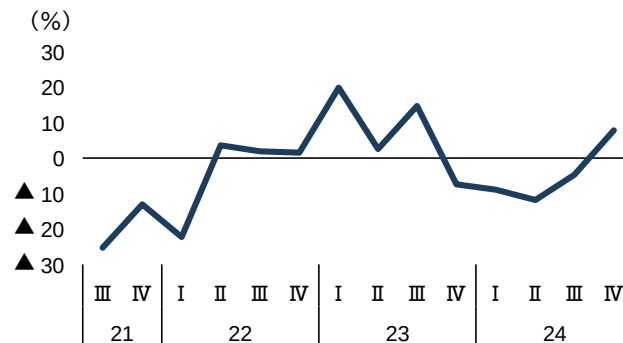
四輪車輸出台数



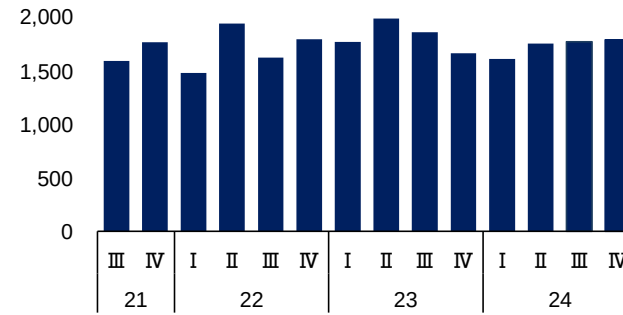
(出所)経済産業省、日本自動車工業会

普通鋼鋼材受注

前年比



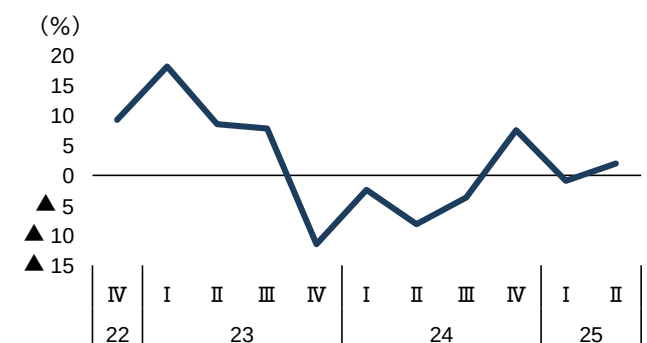
(千トン)



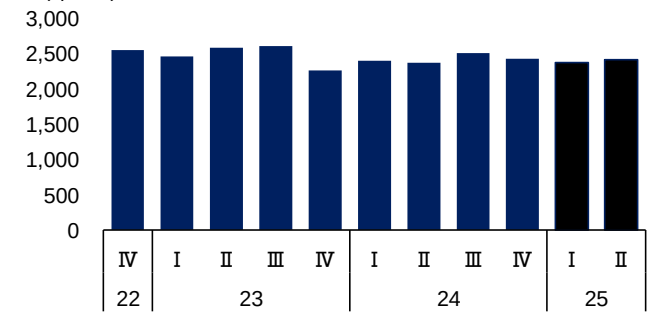
(出所)日本鉄鋼連盟

普通鋼鋼材消費

前年比



(千トン)



(出所)経済産業省

産業機械部門

■足元の動向

- 建設機械は、主要市場の米国や欧州で需要が弱いことから、低調な動きが続く。
- 工作機械は、中国EV市場での堅調な設備投資などもあり、海外向けを中心に底打ち感がみられる。

■見通し

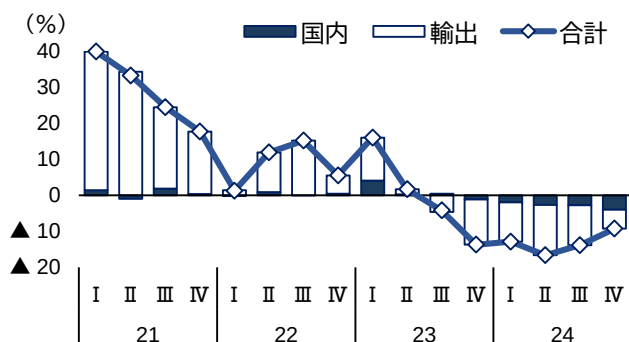
- 建設機械では、米国市場で一部在庫調整が進展も需要回復には至ってはならず、鋼材消費は微増に止まる見通し。
- 工作機械では、中国など外需を中心に回復がみられるとの想定から、鋼材消費は増加の見通し。

産業機械関連指標

機械受注額



建設機械出荷額

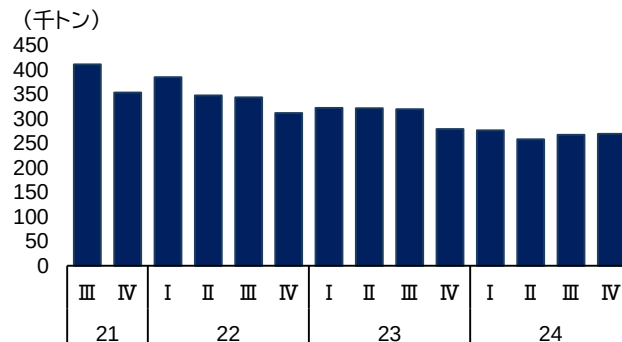
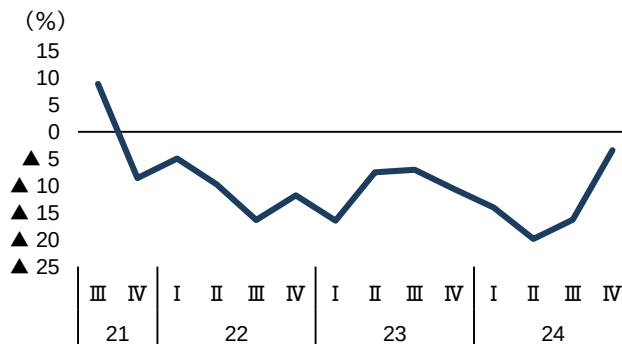


(出所)内閣府、日本建設機械工業会

(注)建設機械出荷額は、日本銀行「企業物価指数」を用いて実質化した。

普通鋼鋼材受注

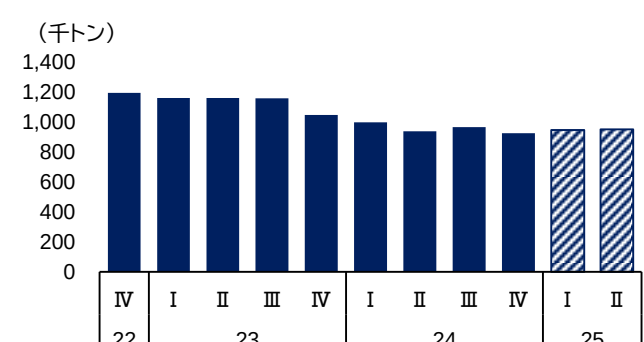
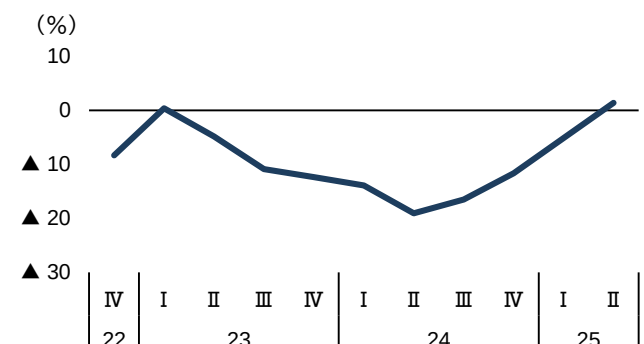
前年比



(出所)日本鉄鋼連盟

普通鋼鋼材消費

前年比



(出所)経済産業省

電気機械部門

■足元の動向

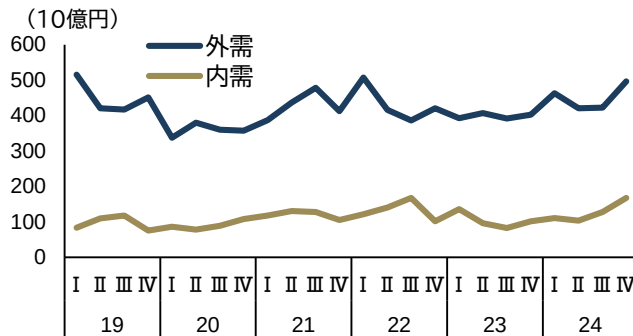
- 電気機械部門は自動車向けが弱含みであることや海外経済の先行き不透明感を背景に総じて減少傾向で推移。
- 重電機械は、低調な自動車生産などに影響され緩やかな減少が続いている。
- 家電は、消費者マインド冷え込みから総じて前年比減少。

■見通し

- 重電機械は、設備投資の手控え等下押し要因はあるが、静止電機が電力業・半導体・電子部品産業向けに堅調に推移し、前年比横ばいの見通し。
- 家電分野は、消費者の購買意欲が抑制されるなか、前年比減少の見通し。

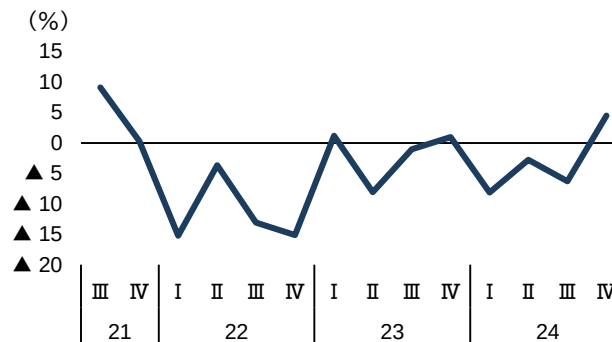
電気機械関連指標

重電機受注額(季節調整済)



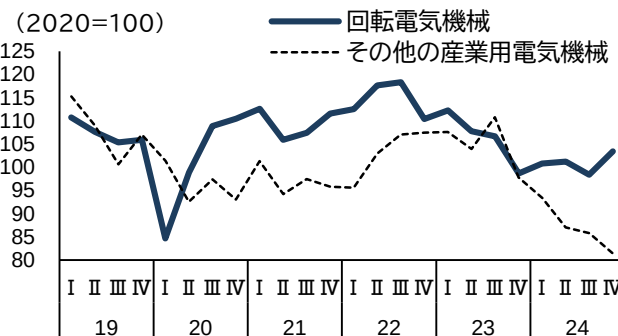
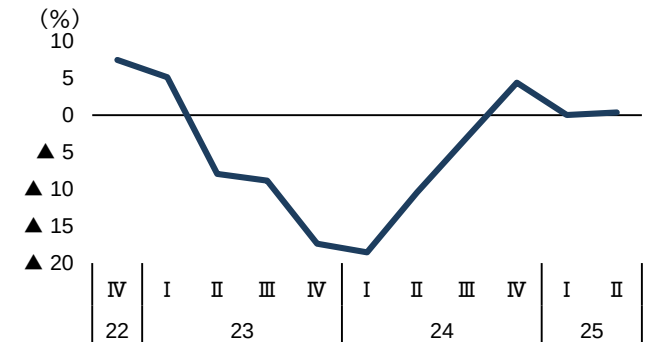
普通鋼鋼材受注

前年比



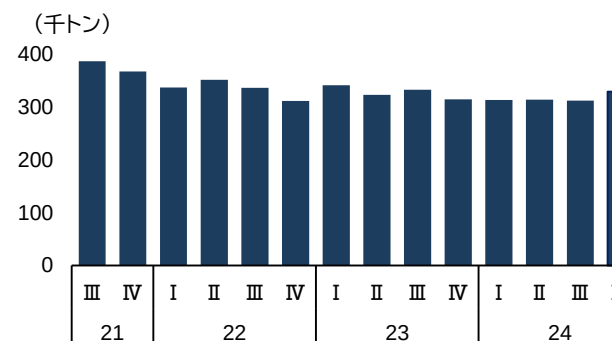
普通鋼鋼材消費

前年比

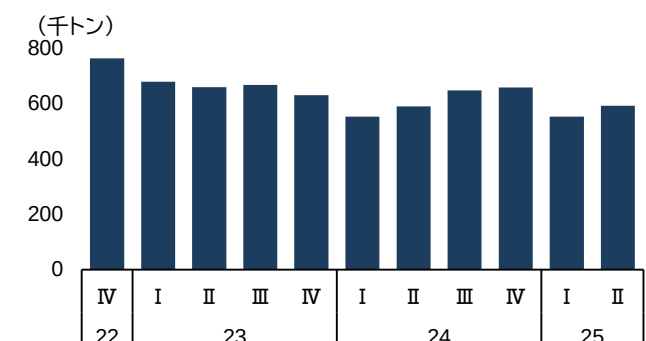


(出所)内閣府、経済産業省

(注)受注額の内需は、合計と外需の差より算出。受注額は事務局にて季節調整を行った。



(出所)日本鉄鋼連盟



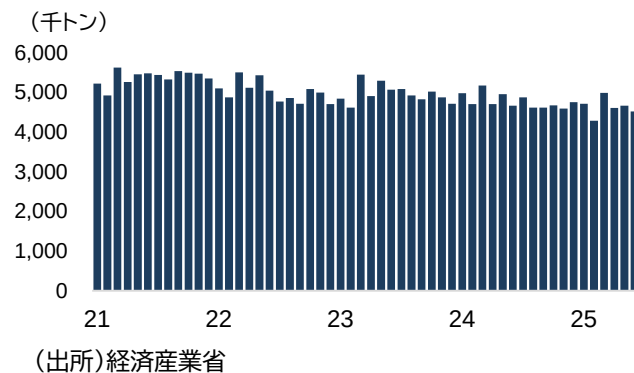
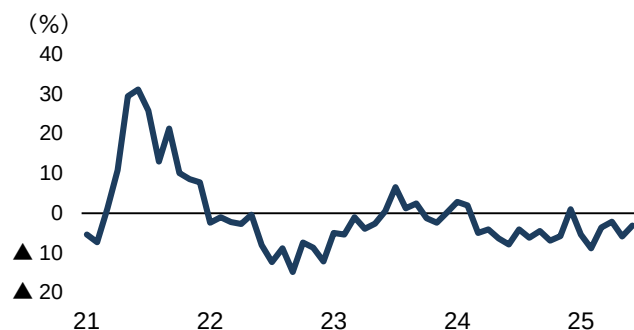
(出所)経済産業省

普通鋼需給

- 鉄鋼需要産業は、内外需ともに力強さを欠き、供給(生産・出荷)は弱含み。
 - ✓ 生産：6月 452.2万トン(前年同月比▲3.1%)
4-6月 1379.5万トン(前年度比▲3.7%)
 - ✓ 出荷：5月 460.6万トン(前年同月比▲4.2%)
4-5月 902.5万トン(同年同期比▲5.3%)
- 普通鋼在庫量は、漸減傾向。鉄鋼業在庫判断DI(日銀短観)でも、調整局面の継続が示されている。

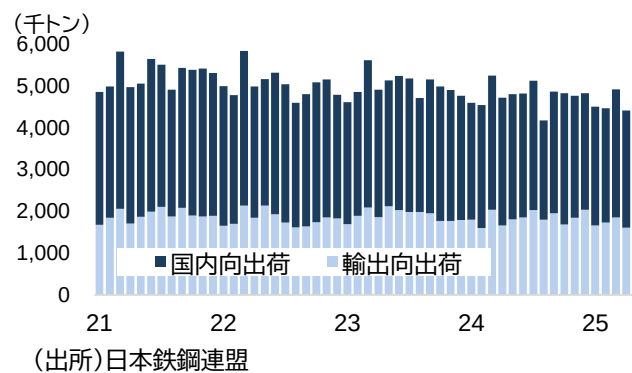
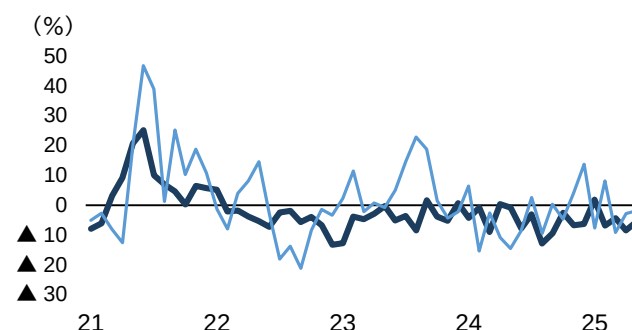
普通鋼鋼材生産

前年比



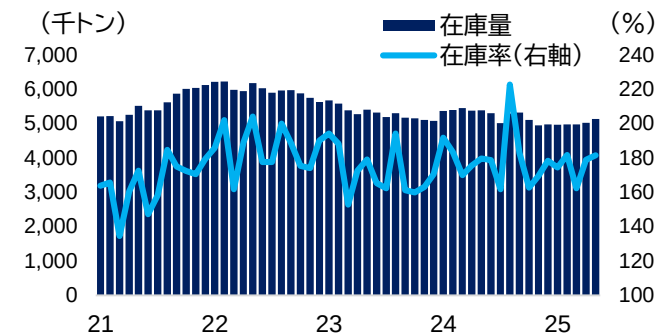
普通鋼鋼材出荷

前年比

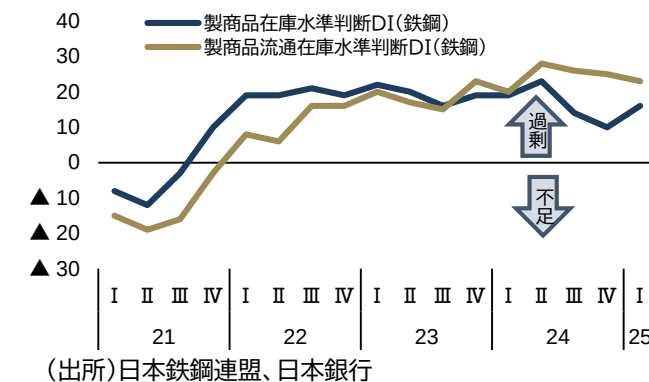


普通鋼鋼材在庫

普通鋼鋼材国内向け在庫



鉄鋼業在庫判断DI



特殊鋼需給

- 内外需とも低調に推移

内需:自動車部門では、認証問題の影響から生産体制は正常化したものの、需要自体は勢いを取り戻さず。

外需:産業機械は一部では在庫調整が進んでいるものの引き続き低調。
日系メーカーの中国でのシェア低下、東南アジアでの需要減少続く。

- 需要の弱さを受け、生産、出荷は低調に推移。

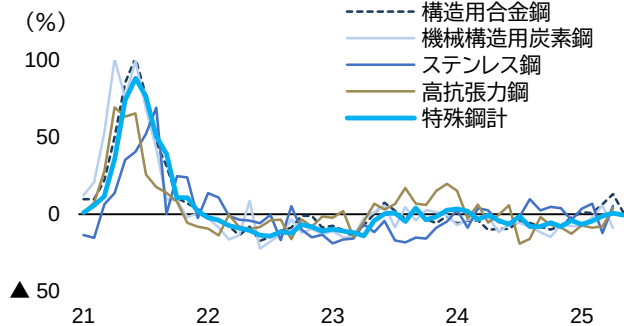
✓ 生産: 5月 120.7万トン(前年同月比▲0.5%)

✓ 出荷: 5月 114.9万トン(前年同月比▲0.001%)

- 需要見合いの供給が続き、在庫は緩やかに低下。

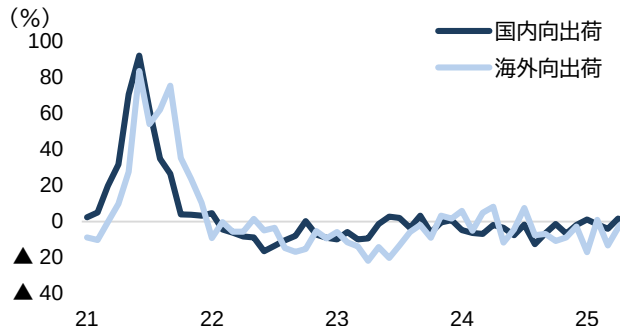
特殊鋼鋼材生産

前年比

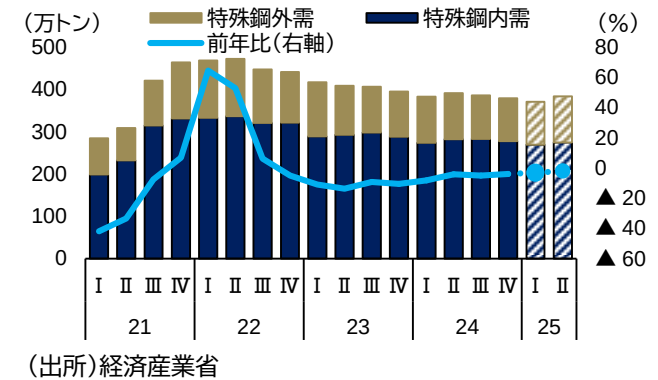


特殊鋼鋼材出荷

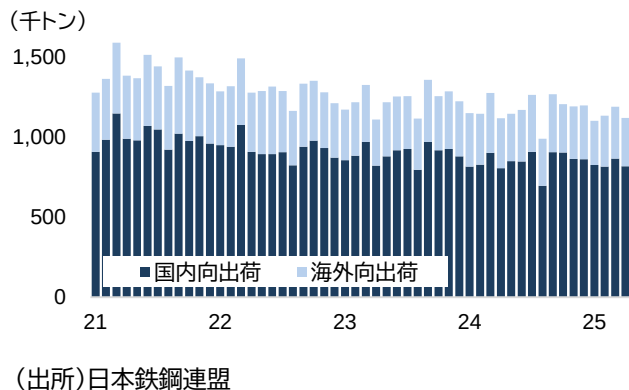
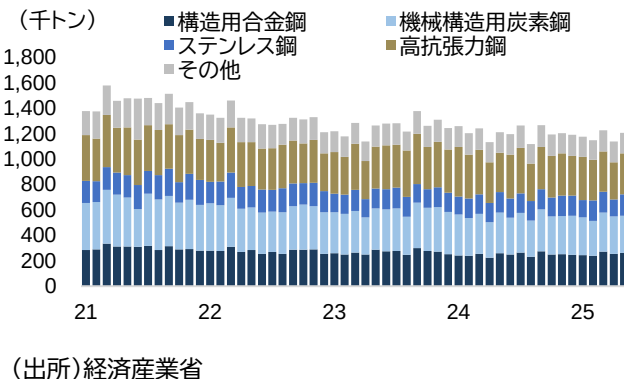
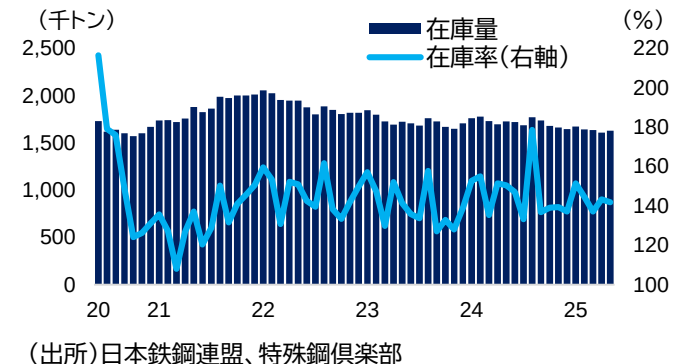
前年比



特殊鋼鋼材需要



特殊鋼鋼材在庫



海外鉄鋼市場

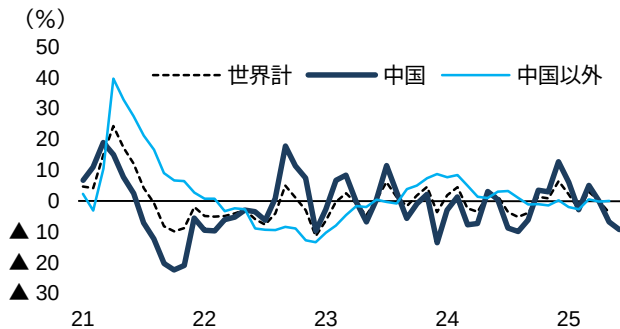
- 国際鉄鋼市場は総じて停滞。中国は内需改善がみられないなか高水準の生産が続く。インドは拡大基調を継続。

- ✓ 世界の粗鋼生産:5月 1億5,878万トン(前年同月比▲3.8%)
1-5月 7億8,396万トン(前年同期比▲1.3%)
- ✓ 中国の粗鋼生産:6月 8,313万トン(前年同月比▲9.2%)
1-6月 5億1,483万トン(前年同期比▲3.0%)
- ✓ インドの粗鋼生産:5月 1,354万トン(前年同月比+10.7%)
1-5月 6,721万トン(前年同期比+8.5%)

- 中国の鋼材輸出:6月 968万トン(前年同月比+10.7%)
1-6月 5,815万トン(前年同期比+8.5%)
* 1-6月期では過去最高を記録
(参考:16年1-6月期 5,727万トン)
- 中国の輸出が高水準で推移するなか、25年7月時点の新規AD調査開始件数は既に18件(うち、中国を含むものは15件)。

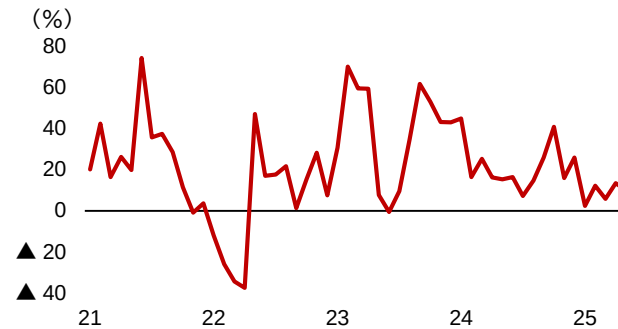
世界粗鋼生産

前年比



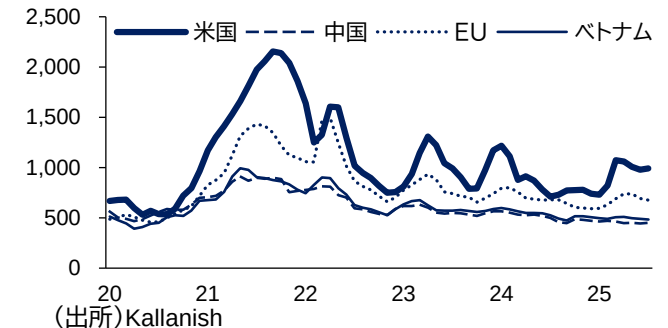
中国の鋼材輸出

前年比



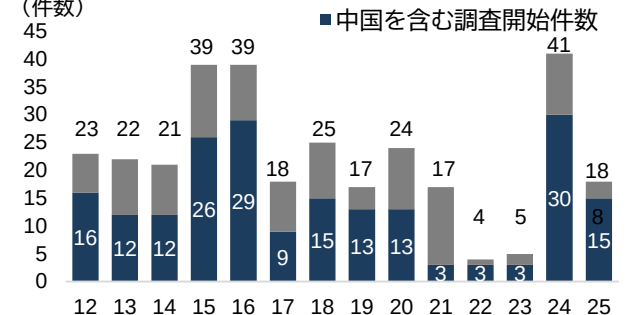
主要国の熱延コイル市況

(ドル/トン)



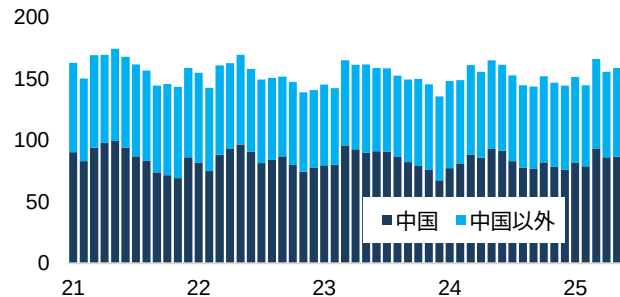
鉄鋼製品への新規AD調査開始件数

(件数)



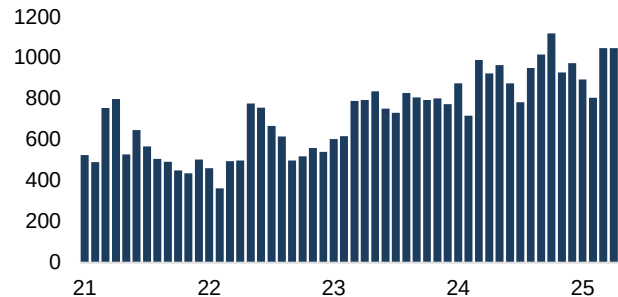
(出所)日本鉄鋼連盟調べ (注)2025年は7月28日時点、暦年

(百万トン)



(出所)世界鉄鋼協会(worldsteel)

(万トン)



(出所)海関総署

鋼材輸入

- 内需が減少を辿るなか、鋼材輸入は増加続き、輸入浸透率は上昇。

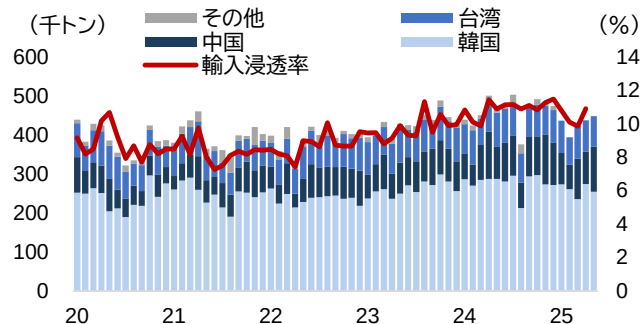
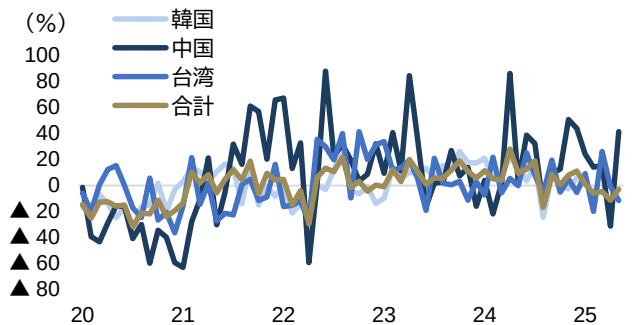
- ✓ 鋼材輸入:5月 45.5万トン(前年同月比▲3.0%)
4-5月 90.0万トン(前年同期比▲7.2%)
- ✓ 供給国別(5月)では、韓国は25.5万トン(前年同期比▲11.4%)、中国は11.5万トン(同+41.4%)、台湾は7.8万トン(▲11.5%)。

- 主要品種は多くの品種で減少に転じた(5月)。

- ✓ 亜鉛めっき鋼板:10.3万トン(前年同期比+6.7%)
- ✓ 熱延鋼板類:12.3万トン(同▲12.0%)
- ✓ 冷延鋼板類:7.4万トン(同▲9.1%)
- ✓ ステンレス鋼板:2.6万トン(同▲8.1%)

鋼材輸入(普通鋼+特殊鋼)

前年比



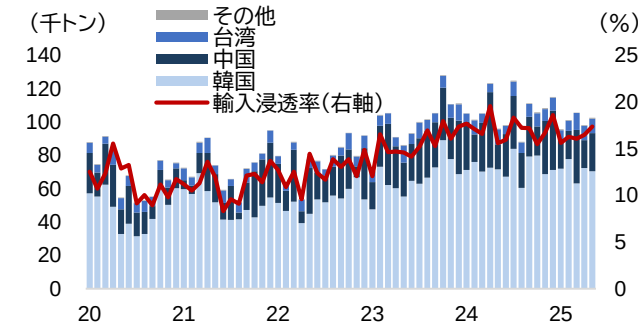
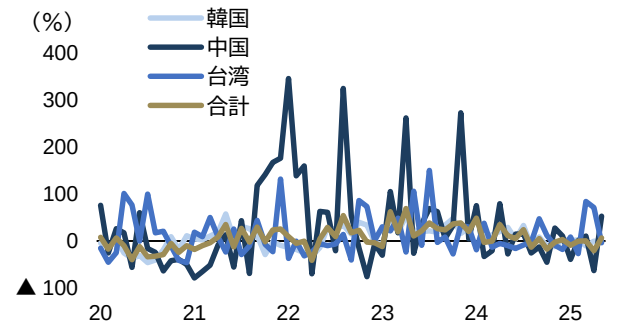
(出所)財務省通関統計

(注)日本鉄鋼連盟にて品目による集計を行っている。

輸入浸透率 = 輸入量/(国内出荷量+輸入量)

亜鉛めっき鋼板輸入

前年比



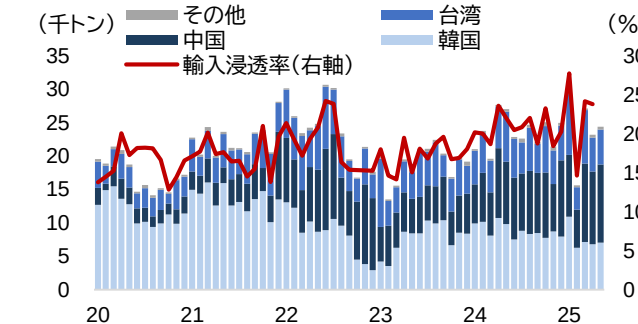
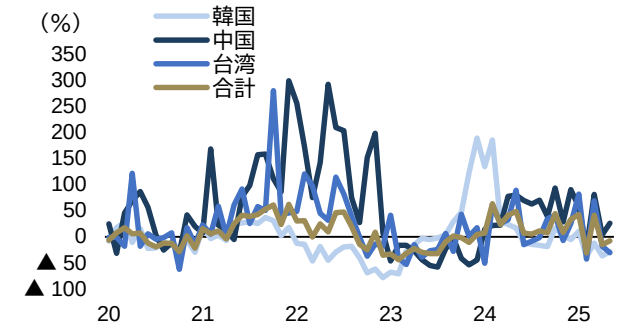
(出所)財務省通関統計

(注)日本鉄鋼連盟にて品目による集計を行っている。

輸入浸透率 = 輸入量/(国内出荷量+輸入量)

ステンレス鋼輸入

前年比



(出所)財務省通関統計

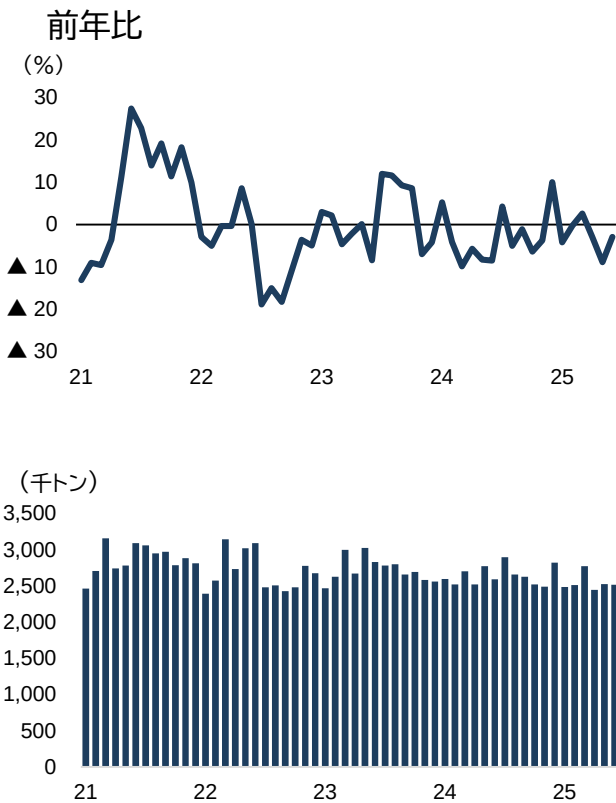
(注)日本鉄鋼連盟にて品目による集計を行っている。

輸入浸透率 = 輸入量/(国内出荷量+輸入量)

鉄鋼輸出

- 輸出環境が厳しさを増すなか、減少基調。
 - ✓ 全鉄鋼輸出:6月 251.6万トン(前年同月比▲2.9%)
4-6月 748.8万トン(前年同期比▲5.0%)
 - ✓ 向け先は、ASEANが増加の一方、韓国、中国、米国は減少。
- 品種別(5月)では、冷延鋼板類を除く主要鋼板類が軒並み減少。
 - ✓ 熱延鋼板類:93.4万トン(前年同月比▲8.8%)
 - ✓ 冷延鋼板類:11.6万トン(同+3.5%)
 - ✓ 厚中板:20.9万トン(同▲16.0%)
- 鋼塊・半製品は減少。
 - ✓ 鋼塊・半製品:25.2万トン(前年同期比▲28.7%)。

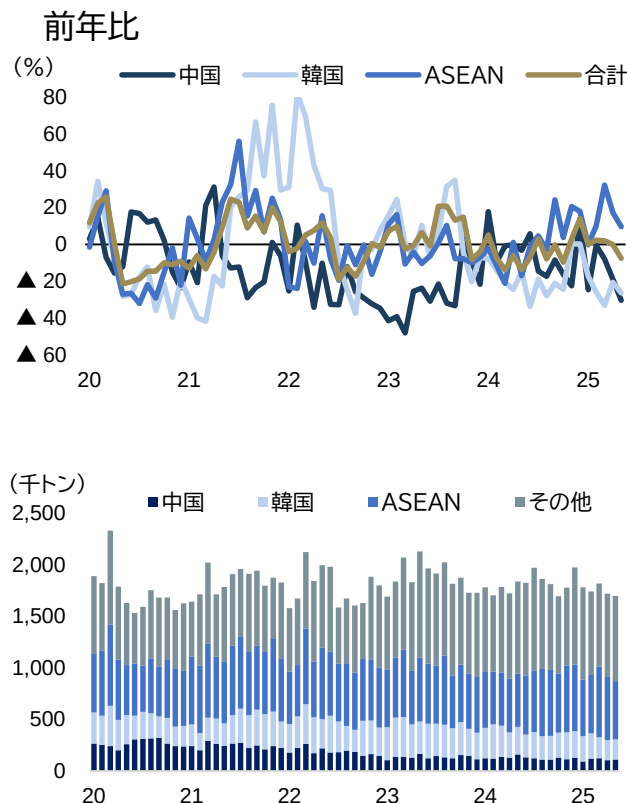
全鉄鋼輸出



(出所)財務省通関統計

(注)日本鉄鋼連盟にて品目による集計を行っている。

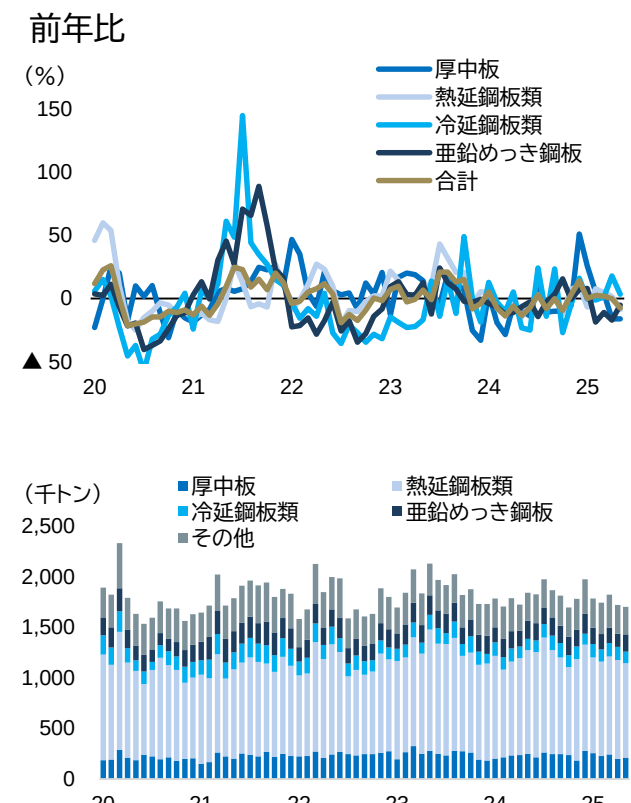
普通鋼鋼材輸出(向け先別)



(出所)財務省通関統計

(注)日本鉄鋼連盟にて品目による集計を行っている。

普通鋼鋼材輸出(品種別)



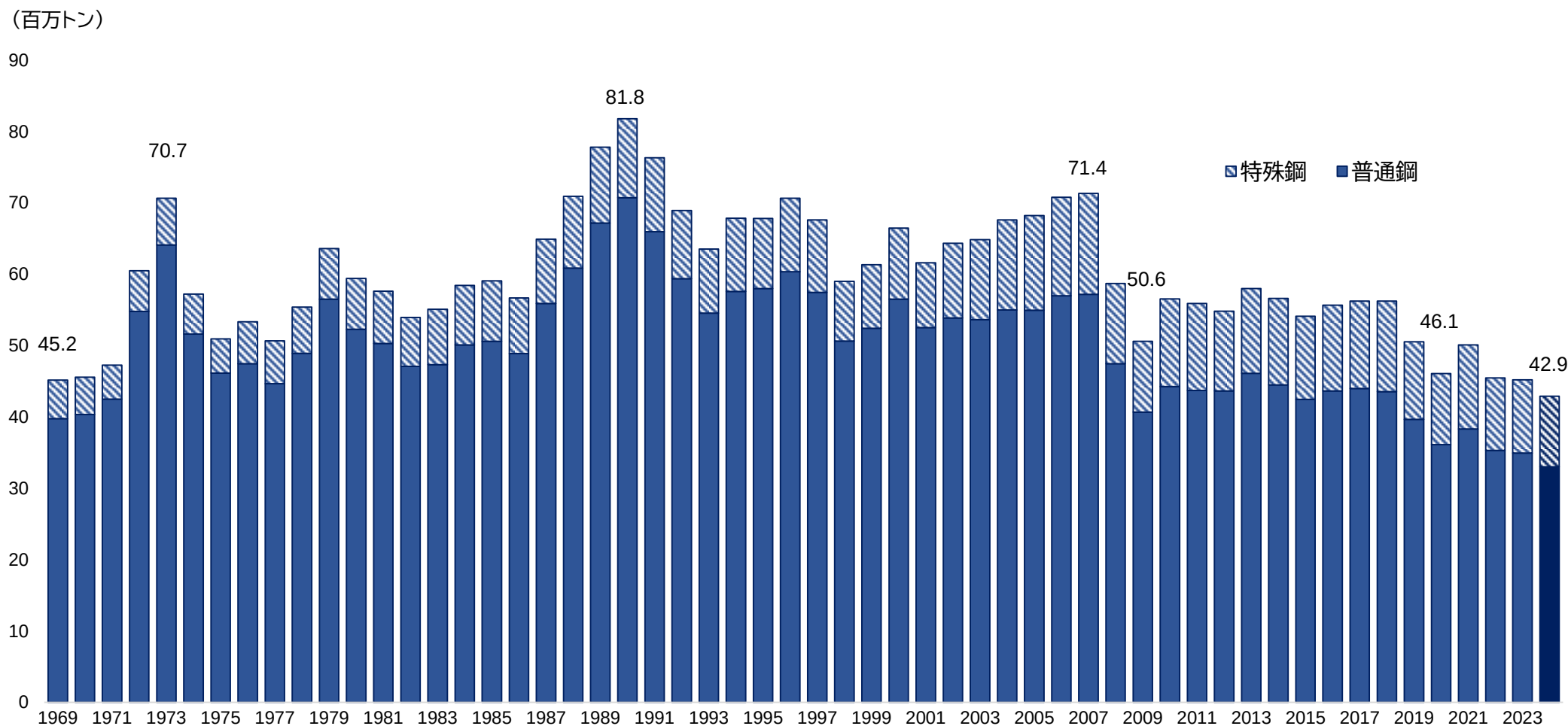
(出所)財務省通関統計

(注)日本鉄鋼連盟にて品目による集計を行っている。

はじめに

- 2024年度の内需向け鋼材受注(普通鋼・特殊鋼)は4,291万トンと、1969年度(4,518万トン)を下回る水準。

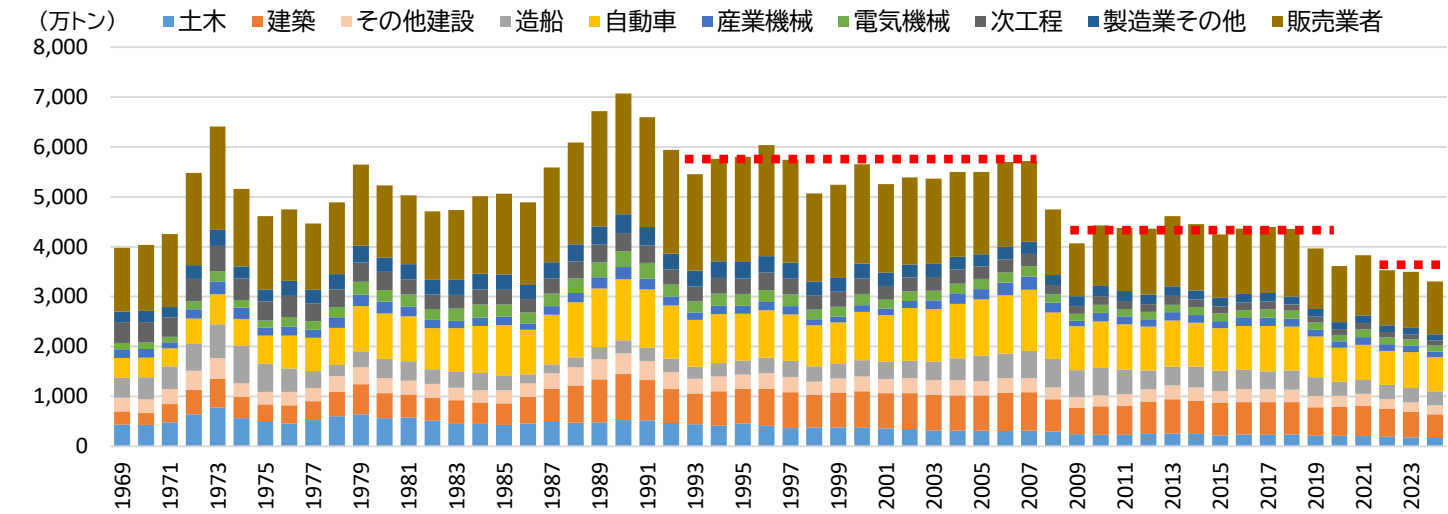
内需向け鋼材受注量の推移



(出所)日本鉄鋼連盟

用途別普通鋼鋼材受注量(内需、最新は2024年度)

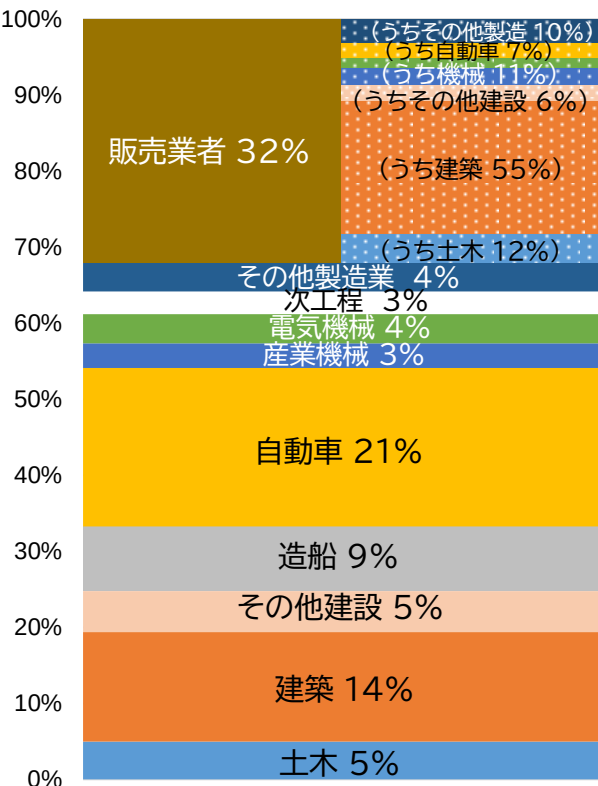
- 普通鋼鋼材受注量は、2000年以降、経済ショックごとに一段下がって推移している。バブル崩壊後の1992年には5,940万トン、リーマンショック後の2012年度は4,365万トン、コロナ後の24年度は3,304万トンと減少傾向を辿り、1969年を下回る水準となった。
- 2024年度の用途別構成比は、販売業者向けが32%と最大である(このうち約7割が建設向けと見られる)。以下、自動車(21%)、建築(14%)、造船(9%)、土木(5%)、その他建設(5%)、産業機械(3%)、電気機械(4%)となっている。



年度	単位	1990	2000	2010	2018	2024	24/90	90-24 CAGR	18-24 CAGR
土木	万トン	527	368	225	234	165	▲68.7%	▲3.4%	▲5.7%
建築	万トン	931	735	575	649	475	▲49.0%	▲2.0%	▲5.1%
造船	万トン	260	328	552	380	282	+8.5%	+0.2%	▲4.9%
自動車	万トン	1,228	964	933	883	689	▲43.9%	▲1.7%	▲4.1%
産業機械	万トン	243	137	169	160	107	▲55.9%	▲2.4%	▲6.4%
販売業者	万トン	2,423	1,990	1,215	1,350	1,057	▲56.4%	▲2.4%	▲4.0%
合計	万トン	7,075	5,653	4,426	4,355	3,304	▲53.3%	▲2.2%	▲4.5%

用途別構成比

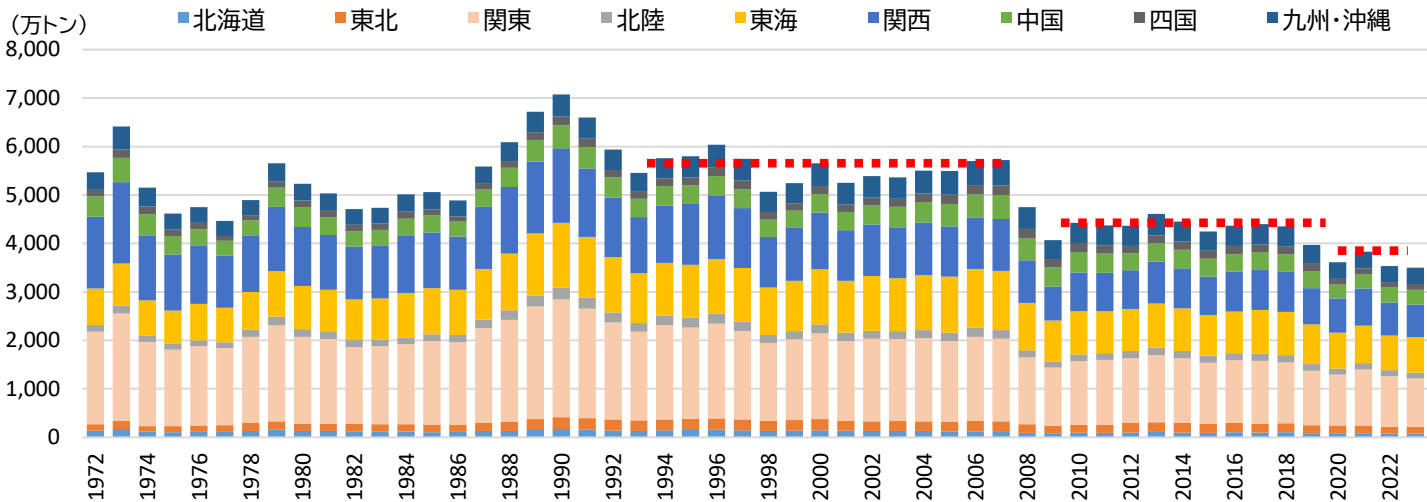
2024年度普通鋼鋼材受注量:3,304万トン



(出所)日本鉄鋼連盟
(注)販売業者の内訳は23年度。

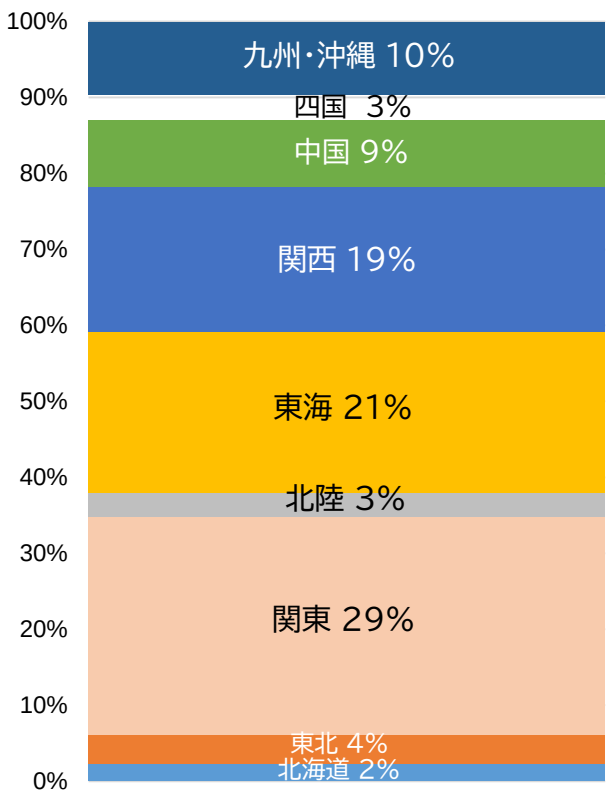
地域別普通鋼鋼材受注量(内需、最新は2023年度)

- 地域別に見ると、特に関東・東海・関西において、ピーク時(90年度)から半減している。
- 2023年度の地域別構成比は、関東が29%と最大である。以下、東海(21%)、関西(19%)、九州・沖縄(10%)、中国(9%)、中国(9%)、東北(4%)、北陸(3%)、四国(3%)、北海道(2%)となっている。



地域別構成比

2023年度普通鋼鋼材受注量: 3,495万トン



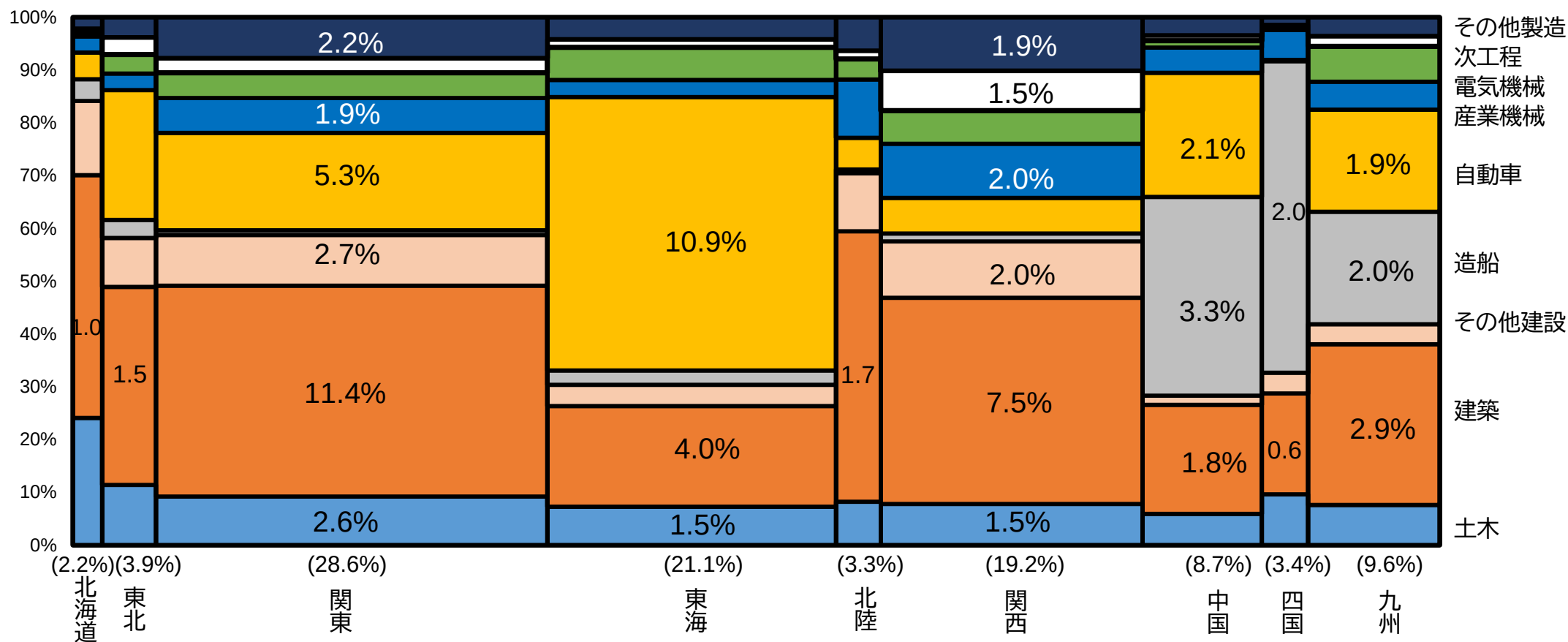
年度	単位	1990	2000	2010	2017	2023	23/90	90-23 CAGR	17-23 CAGR
関東	万トン	2,428	1,770	1,315	1,297	1,001	▲58.8%	▲2.6%	▲4.2%
東海	万トン	1,336	1,138	888	896	738	▲44.8%	▲1.8%	▲3.2%
関西	万トン	1,541	1,170	799	832	670	▲56.5%	▲2.5%	▲3.5%
中国	万トン	478	387	425	367	305	▲36.2%	▲1.4%	▲3.0%
九州	万トン	458	164	420	418	336	▲26.6%	▲0.9%	▲3.6%
合計	万トン	7,075	5,653	4,426	4,398	3,495	▲50.6%	▲2.1%	▲3.8%

(出所)日本鉄鋼連盟

用途別・地域別普通鋼鋼材受注統計の内訳(2023年度)

- 用途別に内訳を見ると、北海道、東北、関東、北陸、関西、九州では、建築が最大の比率を占める。東海では自動車、中国、四国では造船が最大である。

地域別・用途別普通鋼鋼材受注の内訳(2023年度)



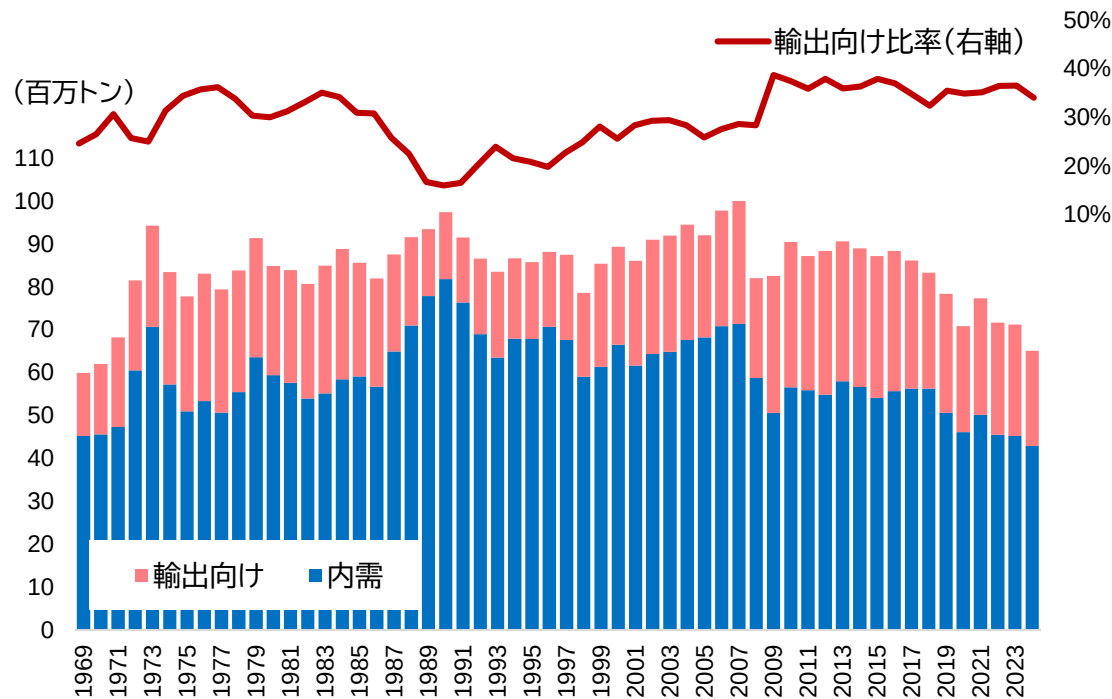
(出所)日本鉄鋼連盟

(注)販売業者向けの数値を最終用途に分解した推計値を使用。

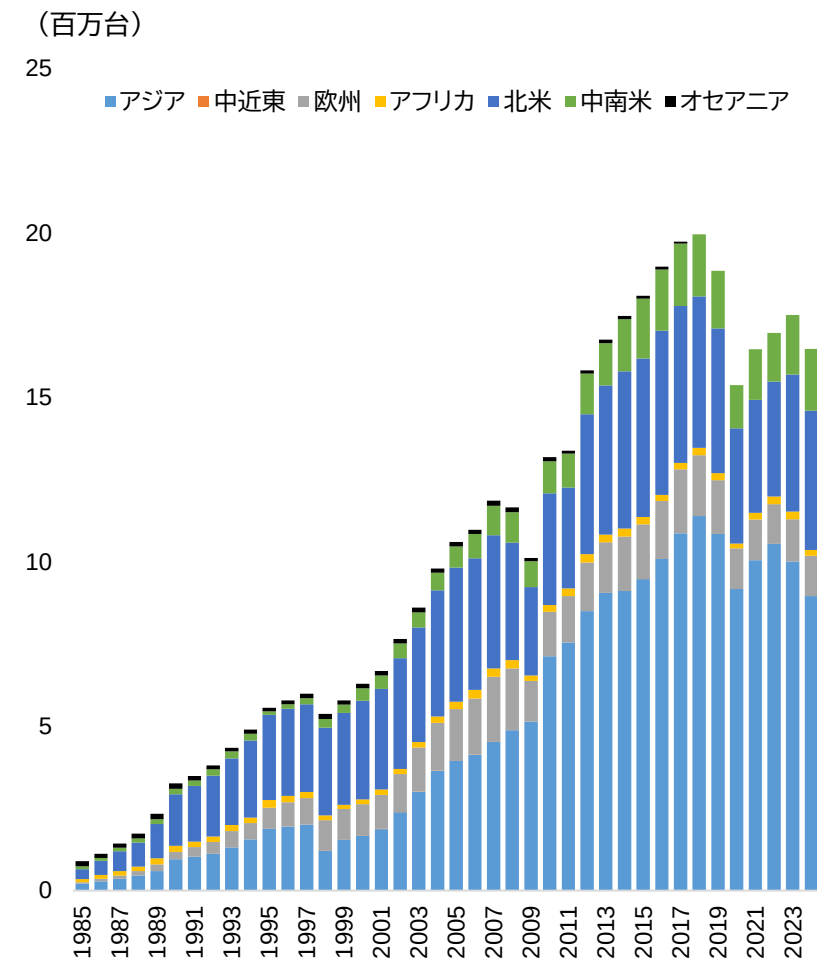
鋼材受注量(輸出向け、普通鋼・特殊鋼、最新は2024年度)

- 2024年度の鋼材受注(輸出向け)は、前年度比14.8%減の2,217万トンと3年連続の減少。
- 内需が減少するなか、輸出向け比率は上昇しており、2010年代頃からは30%超の水準で推移している。

鋼材受注量(内需+輸出向け)の推移



日系自動車海外生産台数(暦年)



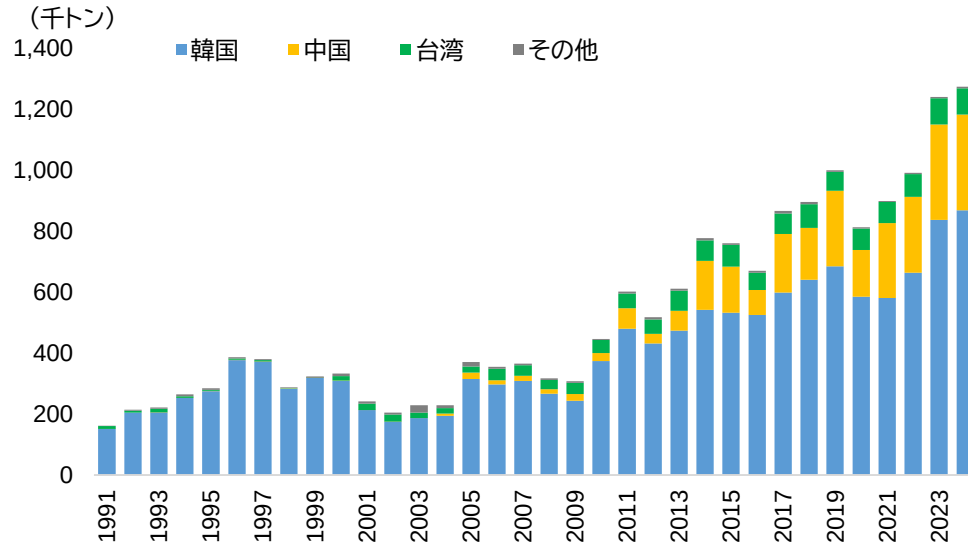
年度	単位	1990	2000	2010	2018	2024	24/90	90-24 CAGR	18-24 CAGR
①内需	万トン	8,182	6,648	5,657	5,627	4,291	▲47.6%	▲1.9%	▲4.4%
②輸出向け	万トン	1,558	2,286	3,386	2,699	2,217	+42.3%	+1.0%	▲3.2%
輸出向け比率	%	16.0%	25.6%	37.4%	32.4%	34.1%	—	—	—
①+②	万トン	9,740	8,934	9,043	8,326	6,508	▲33.2%	▲1.2%	▲4.0%

(出所)日本鉄鋼連盟

(出所)日本自動車工業会

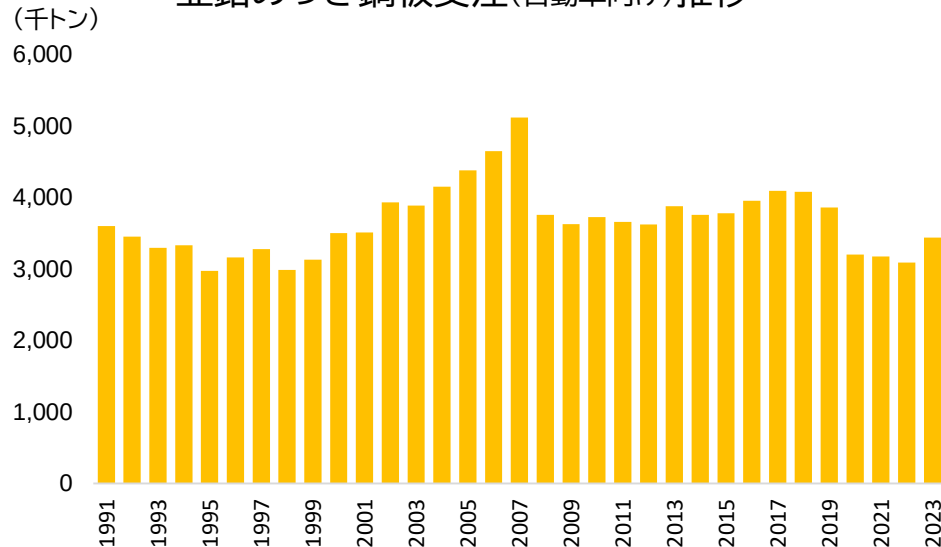
輸入鋼材の動向

亜鉛めっき鋼板輸入推移(国別)



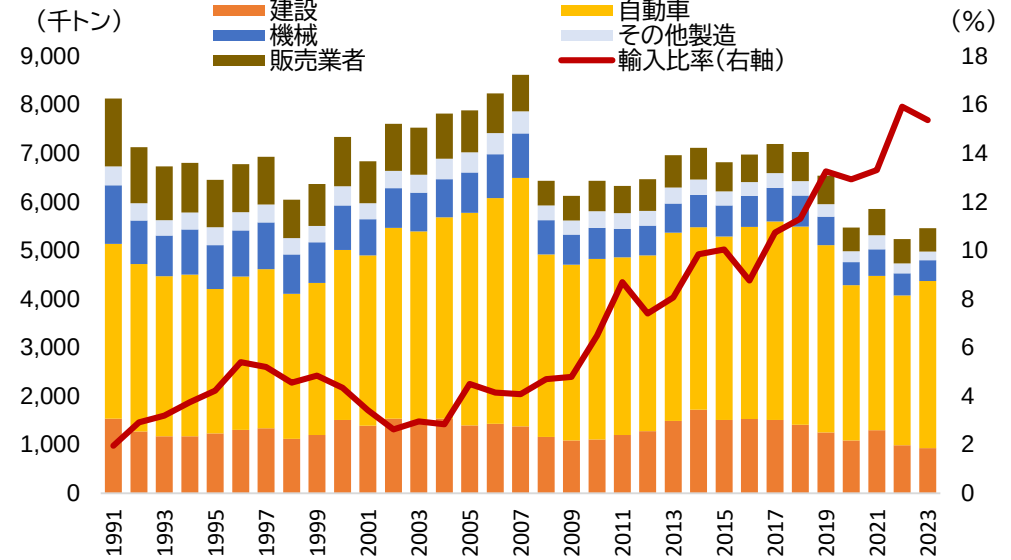
(出所)財務省

亜鉛めっき鋼板受注(自動車向け)推移



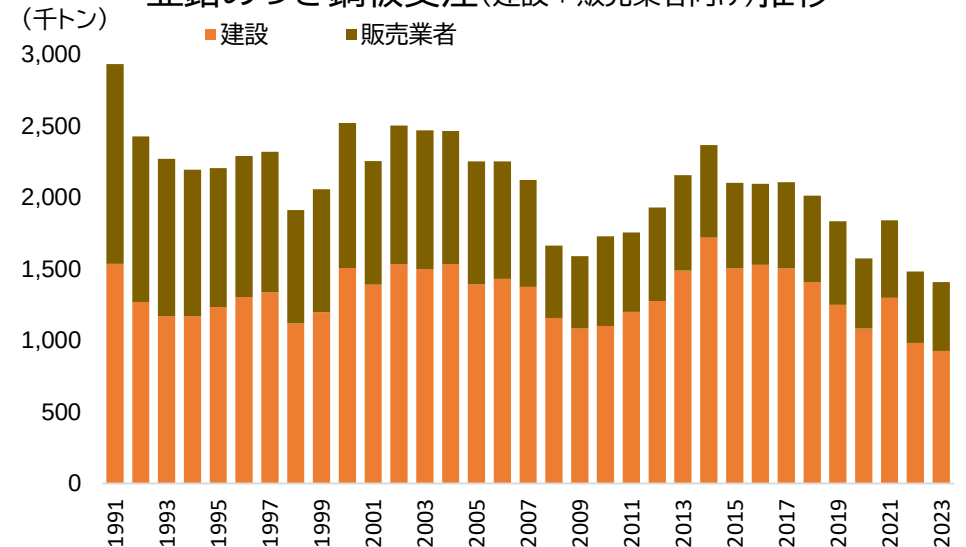
(出所)日本鉄鋼連盟

亜鉛めっき鋼板受注(内需)推移



(出所)日本鉄鋼連盟 (注)輸入比率=輸入/(受注内需+輸入)

亜鉛めっき鋼板受注(建設+販売業者向け)推移



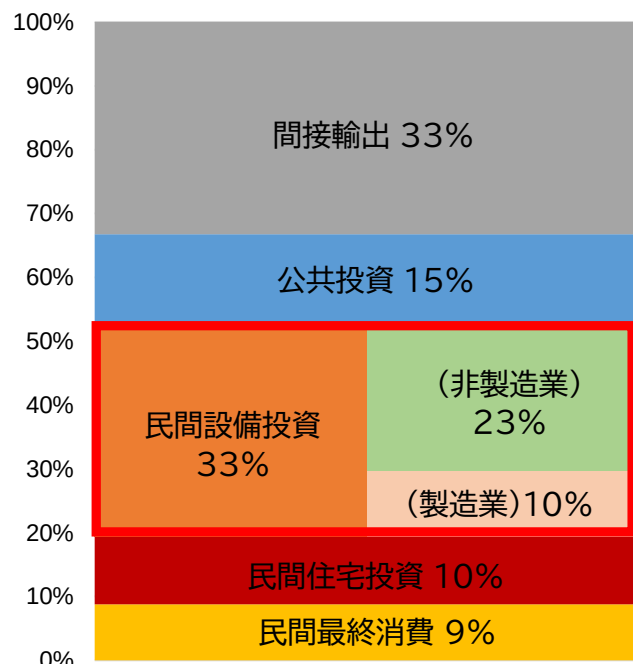
(出所)日本鉄鋼連盟

民間設備投資と機械部門の鋼材消費

- 鋼材需要において、設備投資は重要な要素である。最終需要項目別に見ると、普通鋼鋼材消費のうち民間設備投資の構成比は33%(2023年度)で、間接輸出と並ぶ規模を占める。
- 設備投資が鋼材需要に影響を与える分野として、建築(非住宅)に加え、機械(産業機械・電気機械)が挙げられる。
- しかし、近年は設備投資の動向と機械分野の鋼材消費に乖離が見られる。その背景には、①ソフトウェア投資の比率上昇、②資本財の輸入浸透度の高まりなどが考えられる。

最終需要項目別の普通鋼鋼材消費

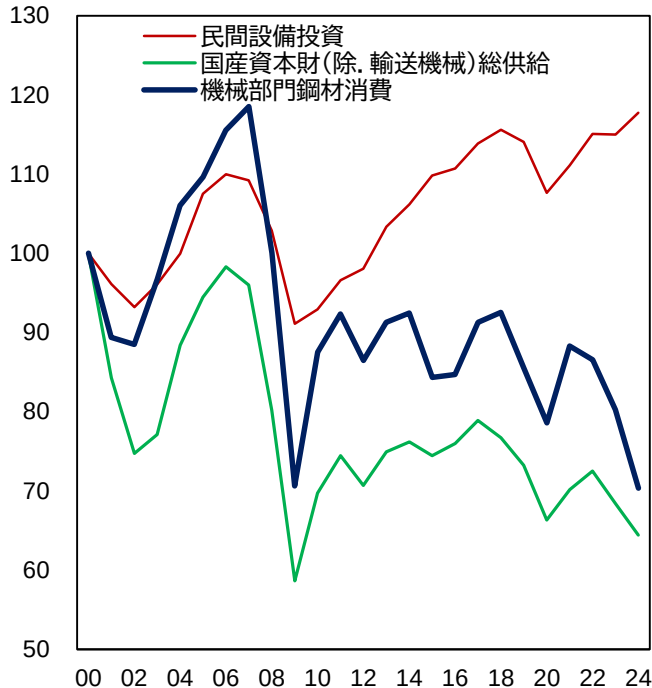
2023年度普通鋼鋼材消費量:4,052万トン



(出所)日本鉄鋼連盟

民間設備投資と産機部門の鋼材消費

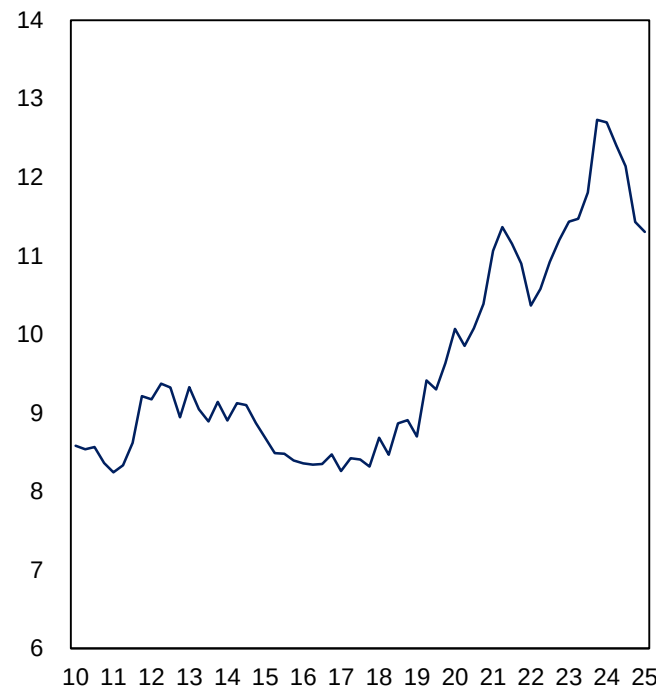
(2000年度=100)



(出所)内閣府、経済産業省、日本鉄鋼連盟

設備投資に占めるソフトウェア比率

(%)

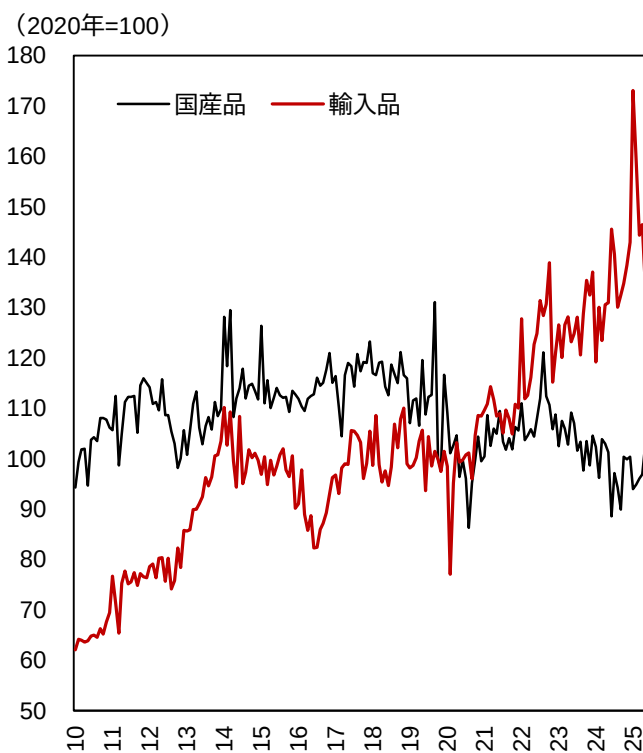


(出所)財務省「法人企業統計」より作成

資本財の輸入動向(菊地ほか(2022)を参考)

- 2020年以降、国内の資本財(輸送機械を除く)総供給において輸入が増加し、国産品との間で乖離が生じている。
- 直近では、資本財の輸入が増加傾向を示し、輸入浸透度は40%を超える水準に達している。生産用機械工業の輸入浸透度は一時的な変動を含みつつ10%台半ばで推移する一方、汎用・業務用機械工業では上昇傾向が続き、足元では30%近い水準となっている。また、電気・情報通信機械工業では50~60%の水準となっている。コロナ禍のテレワーク関連機器需要高まりのほか、DX、脱炭素化などを背景に需要が増加している可能性が指摘されている。
- こうした状況下では、設備投資による国内生産の誘発効果は弱まっており、民間の国内総固定資本形成による粗付加価値の国内誘発効果は低下する一方で、輸入誘発効果は高まっている(菊地ほか(2022))。

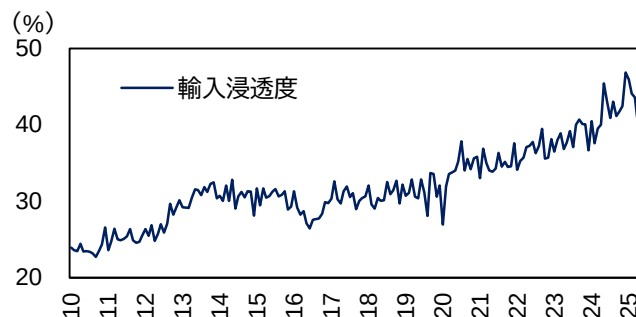
資本財(除.輸送機械)総供給(国産・輸入品別)



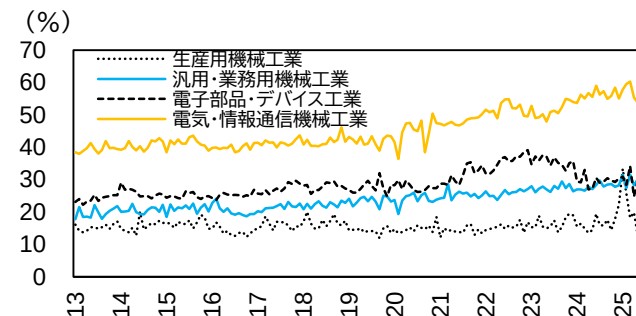
(出所)経済産業省 (注)季節調整済

輸入浸透度

資本財(除.輸送機械)



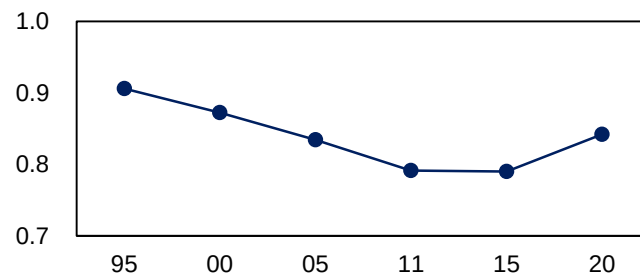
機械関連業種



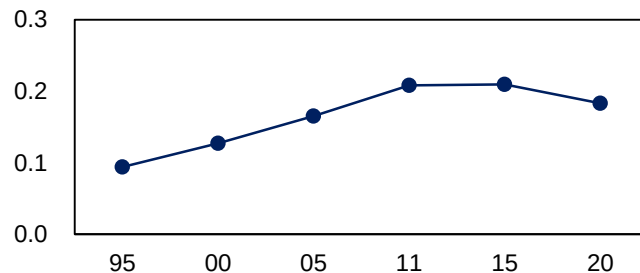
(出所)経済産業省 (注)季節調整済。業種別には資本財以外の財も含まれている。

国内総固定資本形成(民間)による誘発効果

(1)粗付加価値誘発効果



(2)輸入誘発効果



(出所)総務省

(注)ここでの誘発効果とは、国内総固定資本形成(民間)が1単位増加した場合、どの程度増加するかを表す。

参考文献

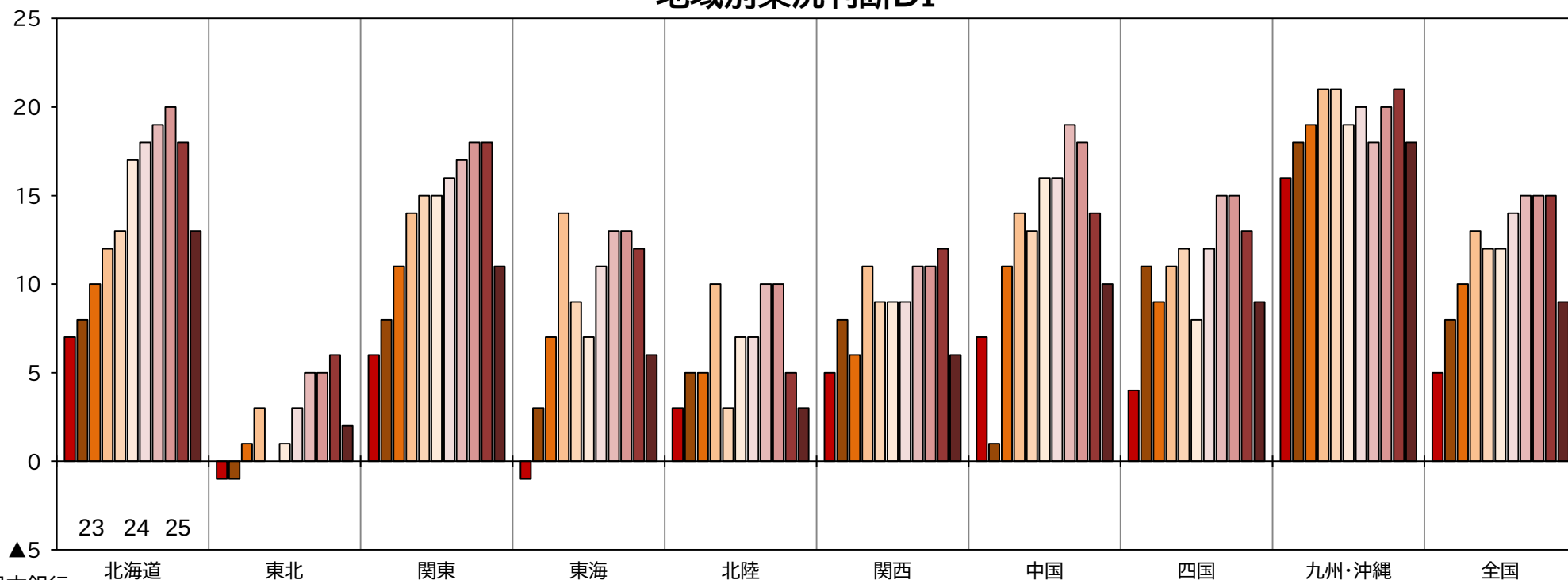
[1] 菊池正尚・田村統久・鈴木源一朗(2022)「資本財の輸入増加の背景について」『マンスリー・トピックス』No.68、2022年10月5日。

https://www5.cao.go.jp/keizai3/monthly_topics/2022/1005/topics_068.pdf (最終アクセス:2025年6月30日)

地域別景況感

- 地域別業況判断DIを見ると、24年度は多くの地域で回復基調が続いたが、力強さには地域差が見られた。ウィズコロナ下での定着した経済活動やインバウンド需要の増加が、サービス業を中心に景気を下支えした。一方で、エネルギー価格の高止まりや人手不足の深刻化、物価上昇による個人消費の伸び悩みといった制約要因も依然として残った。円安は引き続き輸出関連産業に追い風となったが、輸入物価の上昇を通じてコスト面での負担も強まった。
- 北海道：観光業を中心に持ち直しも企業の業況感は小幅に悪化。
- 東北：設備投資、生産活動が持ち直し。
- 関東：個人消費は物価上昇の影響を受けつつも、インバウンドに支えられ緩やかに回復。
- 東海：設備投資・生産の増加で緩やかに回復。
- 北陸：能登半島地震の影響を受けつつも、緩やかに回復。公共投資は大幅増。
- 関西：設備投資や個人消費で緩やかに回復。
- 中国：公共投資が高水準で、個人消費も緩やかに回復。
- 四国：公共投資と個人消費が持ち直し。
- 九州・沖縄：設備投資や公共投資が回復し、個人消費も堅調。

地域別業況判断DI



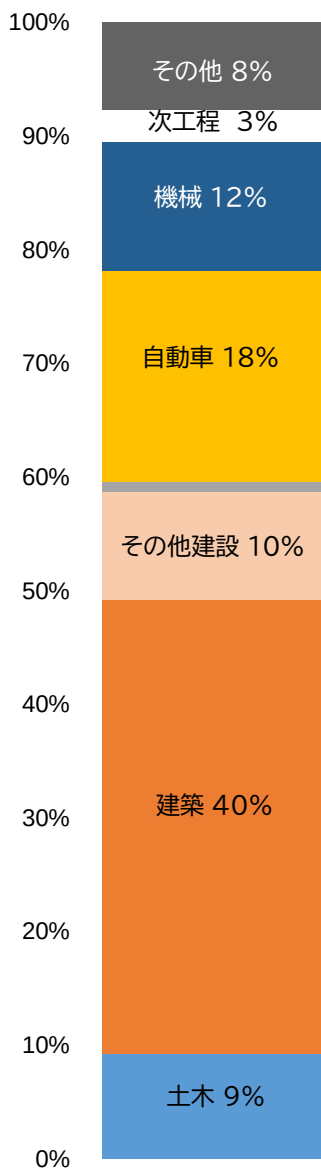
(出所)日本銀行

地域別概要

	普通鋼 受注	建築着工床面積		IIP	概要
		住宅	非住宅		
北海道	▲5.3%	+3.0%	+14.7%	▲2.8%	北海道新幹線延伸や半導体工場建設など大型プロジェクトが下支えも、中小建築の低迷や、人手・資機材不足が下押し要因。
東北	▲5.3%	▲1.6%	▲7.2%	+3.7%	建設資材高騰と人手不足による工事遅延・中止が目立った。自動車は認証問題などにより減少。
関東	▲6.9%	▲1.4%	▲7.8%	▲2.9%	首都圏の大規模再開発の進展が、建設向け鋼材需要を下支えも、全体を牽引するまでには至らず、前年割れ。
東海	▲4.8%	▲1.0%	▲15.8%	▲0.1%	自動車は認証問題などもあって減少。建設では物流施設や再開発事業などがある一方で、資材高や人手不足が下押し。
北陸	▲7.3%	+10.2%	▲7.6%	▲3.8%	能登半島地震からの復旧・復興需要はあるが、被害が広範囲であるため、本復旧までは時間を要するとみられる。建築案件は、大型・中小とも減少。
関西	▲5.5%	+7.2%	▲16.4%	▲2.2%	データセンターや物流倉庫などの案件がある一方で、工事費高騰や人手不足などを背景に盛り上がりに欠く状況である。
中国	▲1.1%	▲4.6%	▲12.1%	▲1.7%	再開発案件、物流施設のほかインバウンド関連の建築を中心に堅調も、中小物件は停滞している。
四国	▲5.1%	▲3.4%	▲11.8%	▲0.6%	公共投資は、国土強靱化関連などの案件があるものの、人手不足による工事計画延期もあって、活動は低調である。
九州・沖縄	▲6.6%	▲1.2%	▲3.9%	▲1.2%	防衛関連や半導体工場建設などの大型投資が活発な一方で、資材高騰、人手不足が深刻化したことなどから、鉄鋼需要は低迷。

関東地区

関東地区の普通鋼
受注構成比(部門別)



(注)23年度の推計値

関東地区の普通鋼鋼材受注

	(千トン、%)			
	23年度	24年度	前年比	構成比
鋼矢板	92	104	12.6	1.0
形鋼	1,378	1,196	▲13.2	11.6
棒鋼	2,347	2,167	▲7.6	21.1
線材	245	242	▲1.3	2.4
厚中板	1,215	1,051	▲13.5	10.2
熱延薄板類	1,928	1,808	▲6.2	17.6
冷延鋼板類	842	846	0.4	8.2
亜鉛めっき	1,550	1,501	▲3.2	14.6
その他表処	628	596	▲5.1	5.8
鋼管	820	769	▲6.2	7.5
合計	11,045	10,278	▲6.9	100.0

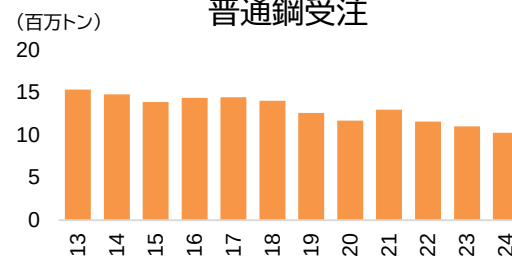
(注)内部流通分を含む。

関東地区の需要産業指標

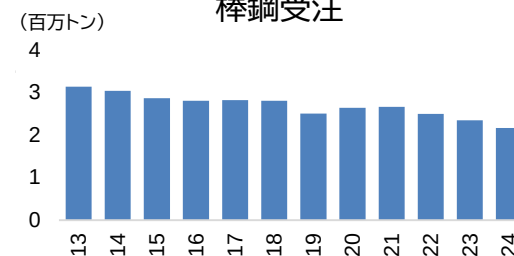
	23年度	24年度	前年比
公共工事請負金額 (億円)	42,333	45,167	6.7
住宅着工戸数 (千戸)	337	341	1.3
建築着工床面積 (千㎡)	41,491	39,971	▲3.7
住宅 (〃)	26,809	26,435	▲1.4
非住宅 (〃)	14,682	13,536	▲7.8
木造 (〃)	16,812	16,536	▲1.6
SRC造 (〃)	707	951	34.5
RC造 (〃)	9,636	9,190	▲4.6
S造 (〃)	14,130	13,125	▲7.1
鉱工業指数 (20年=100)	103.5	100.6	▲2.9
金属製品 (〃)	99.1	96.2	▲2.9
生産用機械 (〃)	122.8	106.9	▲12.9
電気機械 (〃)	102.4	101.7	▲0.7
輸送機械 (〃)	115.1	117.4	2.0

(出所)経済産業省、国土交通省、日本鉄鋼連盟

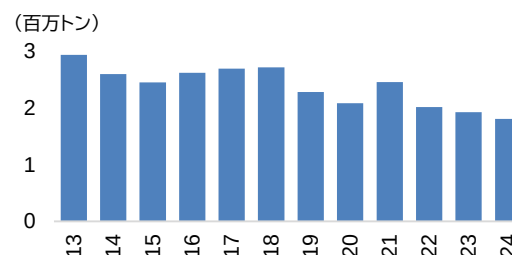
普通鋼受注



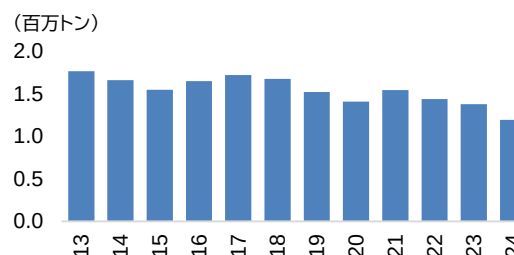
棒鋼受注



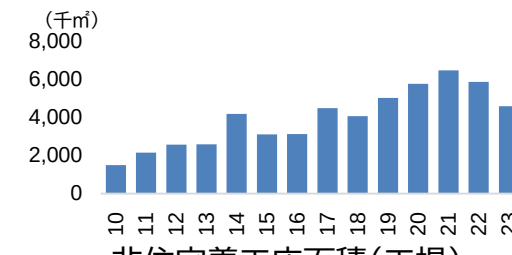
熱延薄板受注



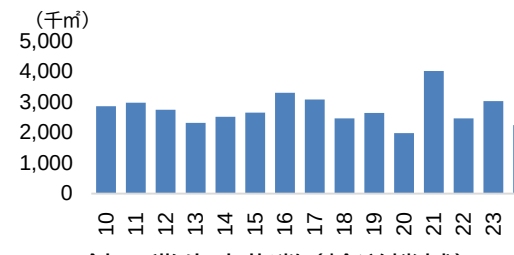
形鋼受注



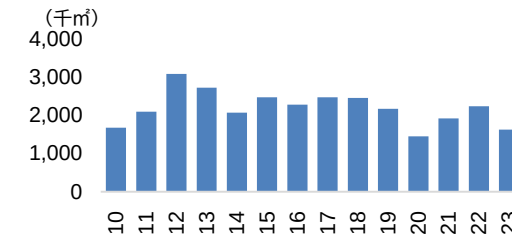
非住宅着工床面積(倉庫)



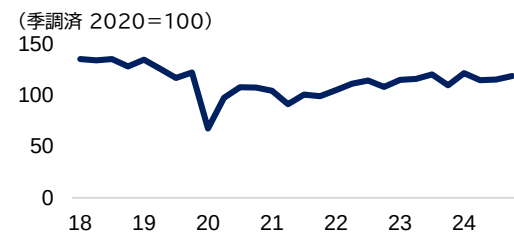
非住宅着工床面積(事務所)



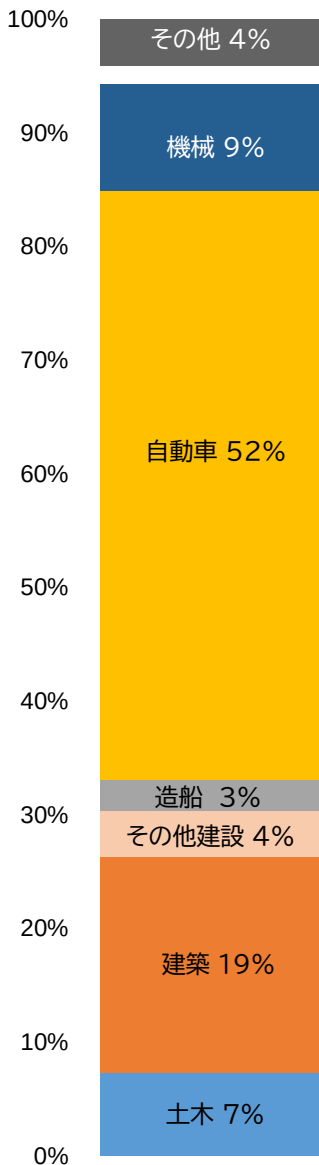
非住宅着工床面積(工場)



鉱工業生産指数(輸送機械)



東海地区

東海地区の普通鋼
受注構成比(部門別)

(注)23年度の推計値

東海地区の普通鋼鋼材受注

	(千トン、%)			
	23年度	24年度	前年比	構成比
鋼矢板	53	43	▲17.9	0.6
形鋼	669	619	▲7.5	8.4
棒鋼	901	826	▲8.3	11.2
線材	129	122	▲5.2	1.7
厚中板	646	635	▲1.8	8.6
熱延薄板類	1,522	1,434	▲5.8	19.5
冷延鋼板類	1,105	1,048	▲5.1	14.2
亜鉛めっき	2,063	2,002	▲3.0	27.2
その他表処	203	198	▲2.1	2.7
鋼管	443	433	▲2.1	5.9
合計	7,733	7,361	▲4.8	100.0

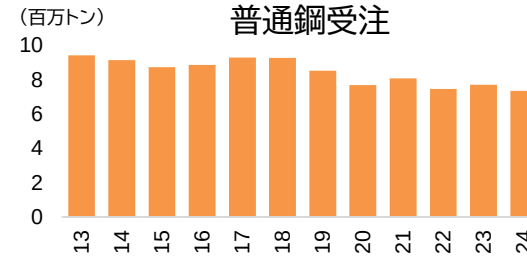
(注)内部流通分を含む。

東海地区の需要産業指標

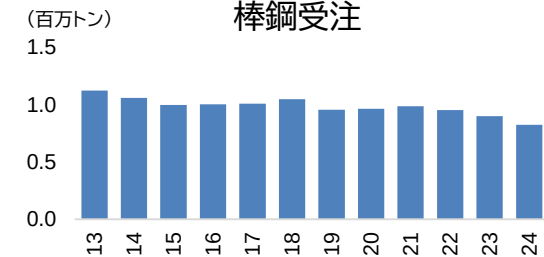
	23年度	24年度	前年比
公共工事請負金額 (億円)	14,121	15,688	11.1
住宅着工戸数 (千戸)	94	92	▲2.7
建築着工床面積 (千㎡)	14,276	13,222	▲7.4
住宅 (〃)	8,123	8,039	▲1.0
非住宅 (〃)	6,153	5,183	▲15.8
木造 (〃)	5,915	6,144	3.9
SRC造 (〃)	98	101	3.0
RC造 (〃)	2,171	1,780	▲18.0
S造 (〃)	6,006	5,080	▲15.4
鉱工業指数 (20年=100)	106.1	106.0	▲0.1
金属製品 (〃)	101.2	101.2	▲0.0
一般機械 (〃)	115.1	111.2	▲3.4
電気機械 (〃)	108.4	97.2	▲10.3
輸送機械 (〃)	109.4	107.3	▲2.0

(出所)経済産業省、国土交通省、日本鉄鋼連盟

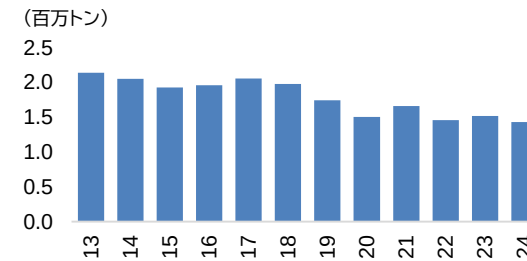
普通鋼受注



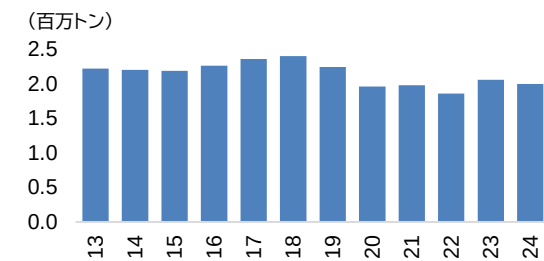
棒鋼受注



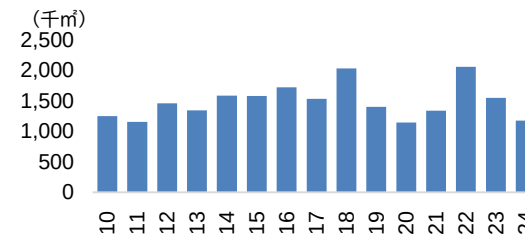
熱延薄板受注



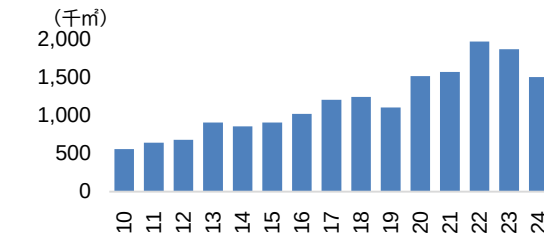
亜鉛めっき受注



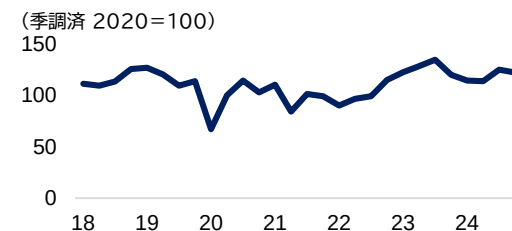
非住宅着工床面積(工場)



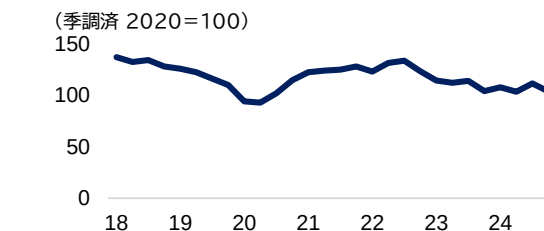
非住宅着工床面積(倉庫)



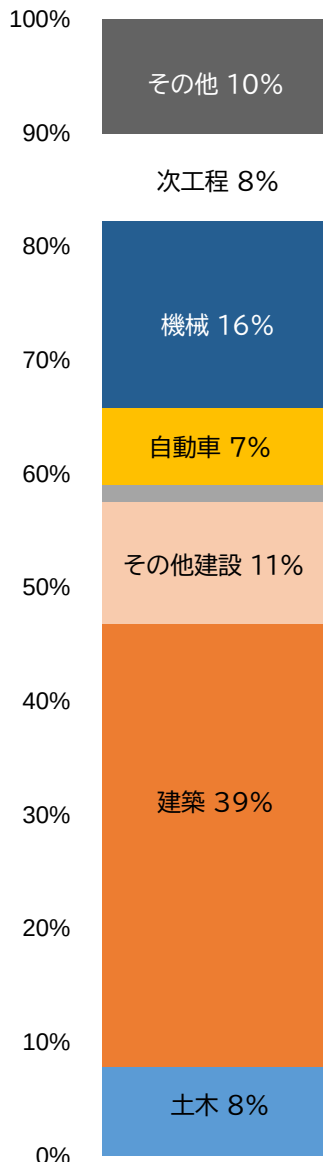
鉱工業生産指数(乗用車)



鉱工業生産指数(汎用・生産用・業務用機械)



関西地区

関西地区の普通鋼
受注構成比(部門別)

(注)23年度の推計値

関西地区の普通鋼鋼材受注

	(千トン、%)			
	23年度	24年度	前年比	構成比
鋼矢板	48	41	▲14.7	0.6
形鋼	781	726	▲7.0	10.0
棒鋼	1,366	1,255	▲8.1	17.2
線材	442	437	▲1.3	6.0
厚中板	1,133	983	▲13.2	13.5
熱延薄板類	1,622	1,522	▲6.2	20.9
冷延鋼板類	617	642	4.0	8.8
亜鉛めっき	853	836	▲2.0	11.4
その他表処	445	464	4.3	6.4
鋼管	419	392	▲6.4	5.4
合計	7,726	7,298	▲5.5	100.0

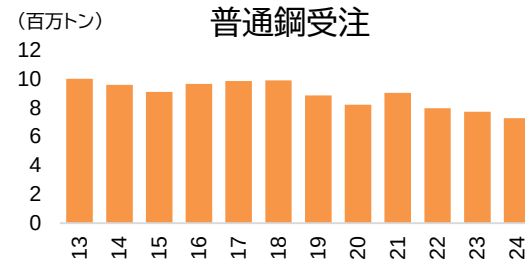
(注)内部流通分を含む。

関西地区の需要産業指標

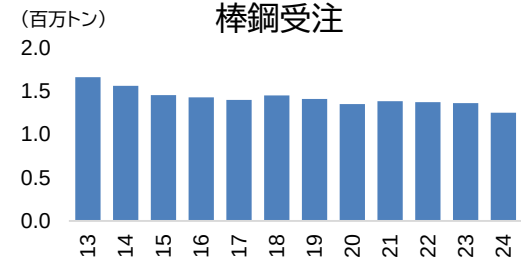
	23年度	24年度	前年比
公共工事請負金額 (億円)	18,185	18,190	0.0
住宅着工戸数 (千戸)	127	138	8.6
建築着工床面積 (千㎡)	16,941	16,436	▲3.0
住宅 (〃)	9,647	10,340	7.2
非住宅 (〃)	7,293	6,096	▲16.4
木造 (〃)	6,138	6,308	2.8
SRC造 (〃)	306	247	▲19.5
RC造 (〃)	4,492	3,972	▲11.6
S造 (〃)	5,920	5,787	▲2.2
鉱工業指数 (20年=100)	99.2	97.0	▲2.2
金属製品 (〃)	91.7	93.3	1.8
一般機械 (〃)	119.7	116.8	▲2.4
電気機械 (〃)	111.3	107.1	▲3.8
輸送機械 (〃)	91.5	89.8	▲1.8

(出所)経済産業省、国土交通省、日本鉄鋼連盟

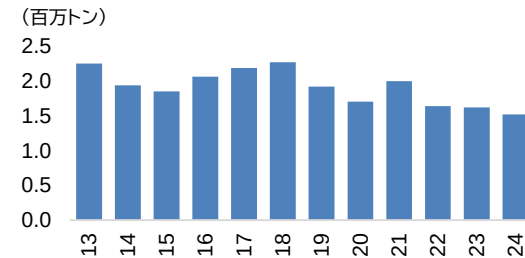
普通鋼受注



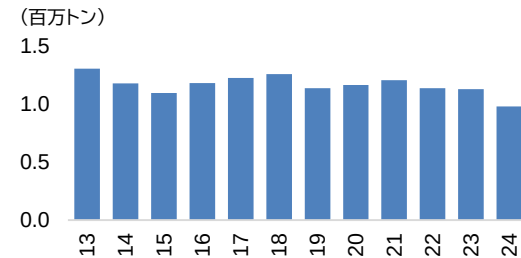
棒鋼受注



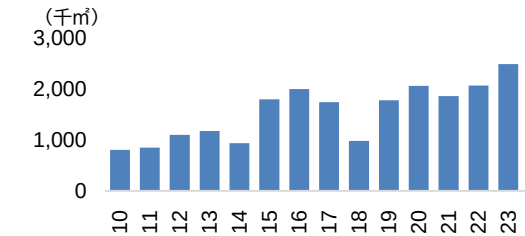
熱延薄板受注



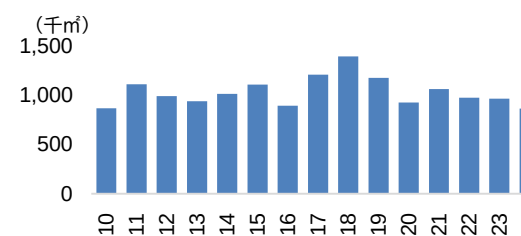
厚中板受注



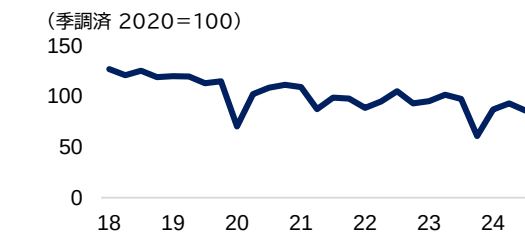
非住宅着工床面積(倉庫)



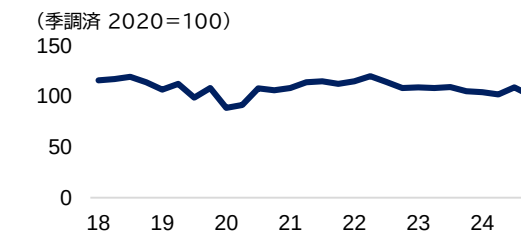
非住宅着工床面積(工場)



鉱工業生産指数(自動車)

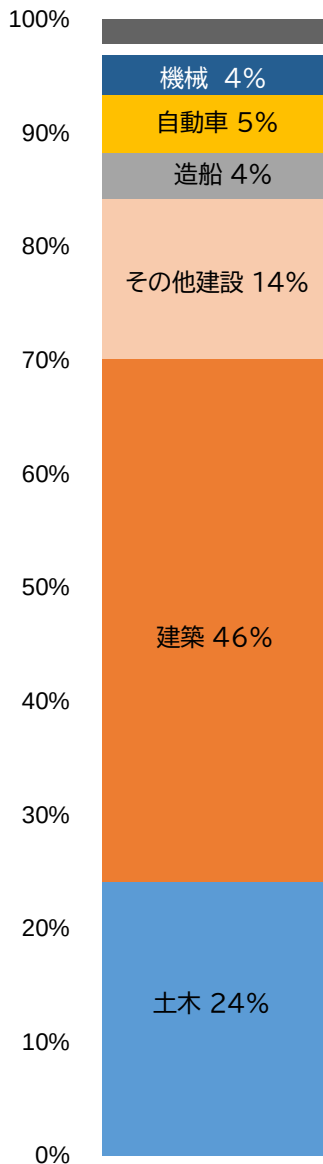


鉱工業生産指数(汎用・生産用・業務用機械)



北海道地区

北海道地区の普通鋼
受注構成比(部門別)



(注)23年度の推計値

北海道地区の普通鋼鋼材受注

	(千トン、%)			
	23年度	24年度	前年比	構成比
鋼矢板	28	24	▲14.3	3.2
形鋼	131	125	▲4.6	16.6
棒鋼	297	318	7.3	42.2
線材	9	11	29.2	1.5
厚中板	99	78	▲21.3	10.3
熱延薄板類	73	57	▲22.9	7.5
冷延鋼板類	21	16	▲20.8	2.2
亜鉛めっき	35	37	4.2	4.9
その他表処	29	24	▲15.6	3.2
鋼管	75	64	▲14.5	8.5
合計	796	754	▲5.3	100.0

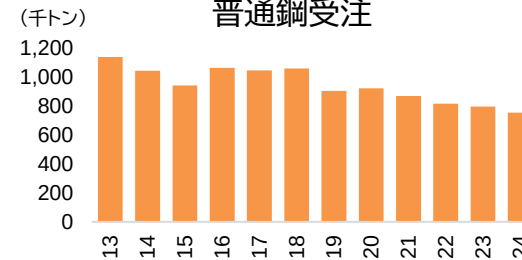
(注)内部流通分を含む。

北海道地区の需要産業指標

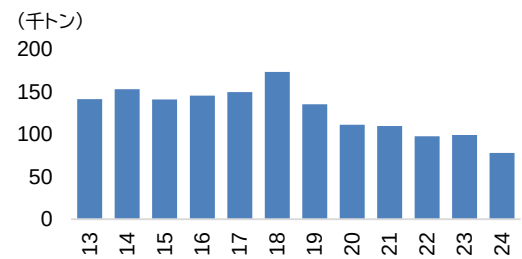
	23年度	24年度	前年比
公共工事請負金額 (億円)	10,081	10,911	8.2
住宅着工戸数 (千戸)	28	30	6.2
建築着工床面積 (千㎡)	3,807	4,093	7.5
住宅 (〃)	2,336	2,405	3.0
非住宅 (〃)	1,471	1,688	14.7
木造 (〃)	1,605	1,737	8.2
SRC造 (〃)	43	53	24.5
RC造 (〃)	1,196	1,091	▲8.8
S造 (〃)	945	1,190	25.9
鉱工業指数 (20年=100)	98.4	95.7	▲2.8
金属製品 (〃)	99.7	82.4	▲17.4
一般機械 (〃)	115.2	115.4	0.2
電気機械 (〃)	106.7	108.4	1.5
輸送機械 (〃)	86.9	93.6	7.6

(出所)経済産業省、国土交通省、日本鉄鋼連盟

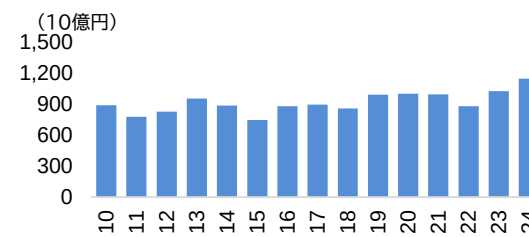
普通鋼受注



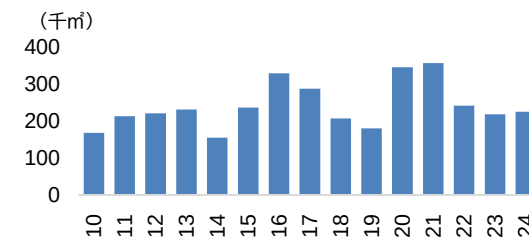
厚中板受注



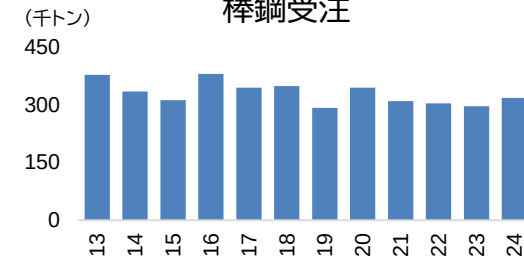
公共工事請負金額(季調済)



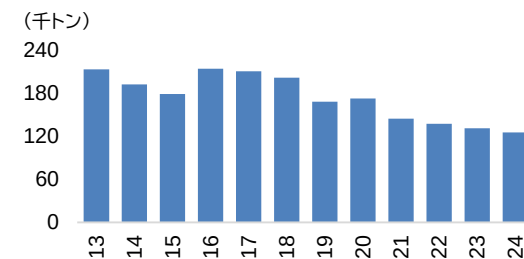
非住宅着工床面積(倉庫)



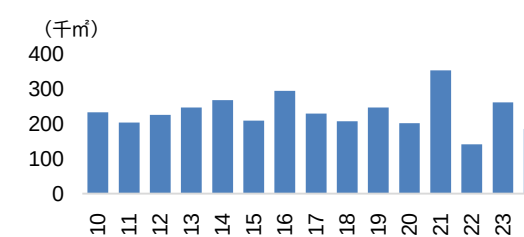
棒鋼受注



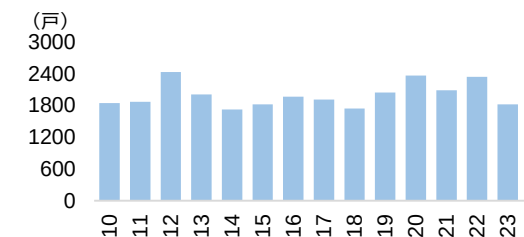
形鋼受注



非住宅着工床面積(工場)

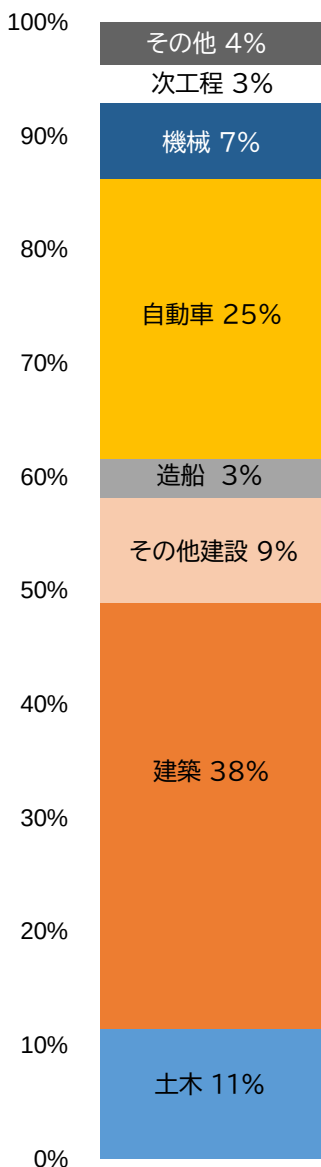


新設住宅(マンション)着工戸数



東北地区

東北地区の普通鋼
受注構成比(部門別)



(注)23年度の推計値

東北地区の普通鋼鋼材受注

	(千トン、%)			
	23年度	24年度	前年比	構成比
鋼矢板	18	25	37.7	1.8
形鋼	277	241	▲13.0	17.3
棒鋼	235	222	▲5.2	16.0
線材	51	50	▲1.5	3.6
厚中板	167	156	▲6.6	11.2
熱延薄板類	187	175	▲6.1	12.6
冷延鋼板類	90	90	0.3	6.5
亜鉛めっき	285	282	▲1.1	20.2
その他表処	77	78	1.3	5.6
鋼管	86	74	▲13.0	5.3
合計	1,471	1,393	▲5.3	100.0

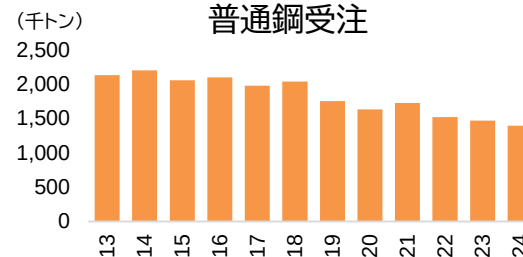
(注)内部流通分を含む。

東北地区の需要産業指標

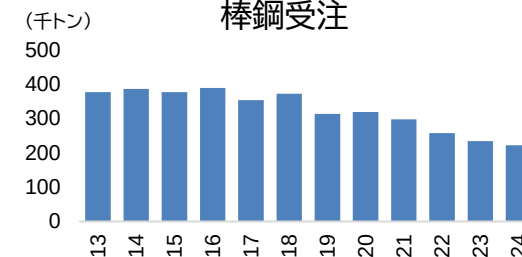
	23年度	24年度	前年比
公共工事請負金額 (億円)	13,984	13,995	0.1
住宅着工戸数 (千戸)	43	44	1.5
建築着工床面積 (千㎡)	6,838	6,562	▲4.0
住宅 (〃)	3,868	3,806	▲1.6
非住宅 (〃)	2,970	2,755	▲7.2
木造 (〃)	3,510	3,456	▲1.5
SRC造 (〃)	86	20	▲77.1
RC造 (〃)	604	621	2.8
S造 (〃)	2,468	2,386	▲3.3
鉱工業指数 (20年=100)	104.1	108.0	3.7
金属製品 (〃)	101.6	97.6	▲4.0
生産用機械 (〃)	106.5	144.0	35.2
電気機械 (〃)	93.3	98.1	5.1
輸送機械 (〃)	117.6	117.9	0.3

(出所)経済産業省、国土交通省、日本鉄鋼連盟

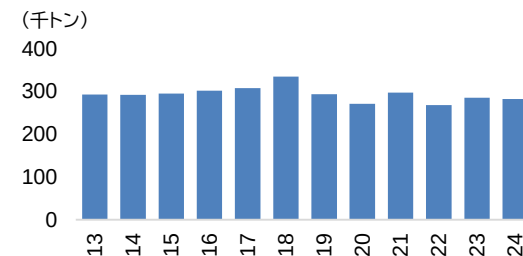
普通鋼受注



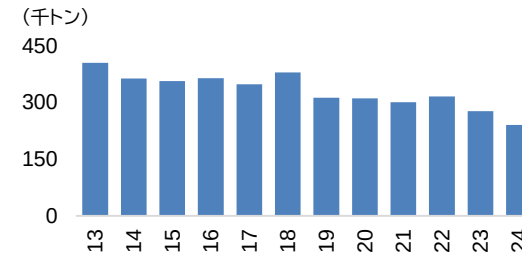
棒鋼受注



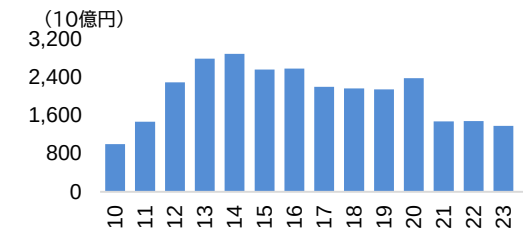
亜鉛めっき受注



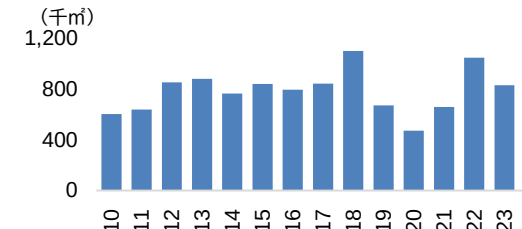
形鋼受注



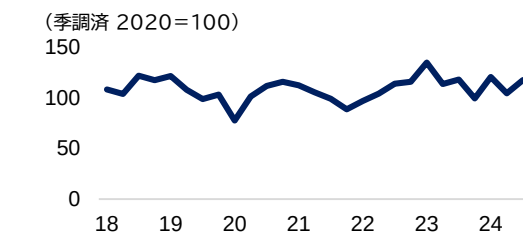
公共工事請負金額(季調済)



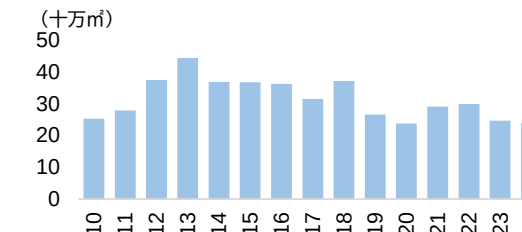
非住宅着工床面積(工場)



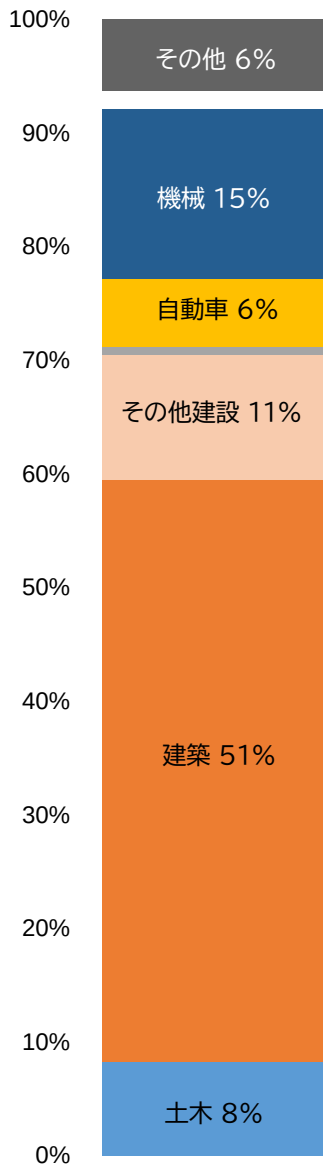
鉱工業生産指数(自動車)



建築物(S造)着工床面積



北陸地区

北陸地区の普通鋼
受注構成比(部門別)

(注)23年度の推計値

北陸地区の普通鋼鋼材受注

	(千トン、%)			
	23年度	24年度	前年比	構成比
鋼矢板	25	28	9.5	2.6
形鋼	243	193	▲20.4	17.9
棒鋼	269	264	▲1.7	24.4
線材	13	11	▲13.0	1.0
厚中板	166	157	▲5.9	14.5
熱延薄板類	149	141	▲5.2	13.1
冷延鋼板類	69	61	▲12.1	5.6
亜鉛めっき	105	110	4.2	10.1
その他表処	54	49	▲9.2	4.5
鋼管	72	67	▲7.2	6.2
合計	1,165	1,080	▲7.3	100.0

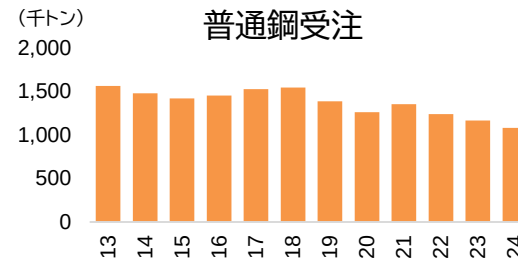
(注)内部流通分を含む。

北陸地区の需要産業指標

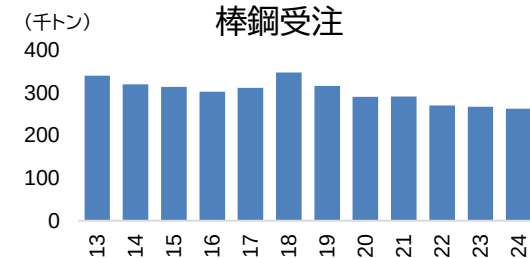
	23年度	24年度	前年比
公共工事請負金額 (億円)	7,547	9,171	21.5
住宅着工戸数 (千戸)	22	24	9.8
建築着工床面積 (千㎡)	4,109	4,211	2.5
住宅 (〃)	2,326	2,564	10.2
非住宅 (〃)	1,783	1,646	▲7.6
木造 (〃)	2,079	2,258	8.6
SRC造 (〃)	40	186	361.5
RC造 (〃)	224	245	9.5
S造 (〃)	1,560	1,308	▲16.1
鉱工業指数 (20年=100)	105.1	101.0	▲3.8
金属製品 (〃)	105.8	100.4	▲5.1
一般機械 (〃)	131.5	117.0	▲11.0
電気機械 (〃)	89.2	87.1	▲2.3
輸送機械 (〃)	120.0	120.5	0.4

(出所)経済産業省、国土交通省、日本鉄鋼連盟

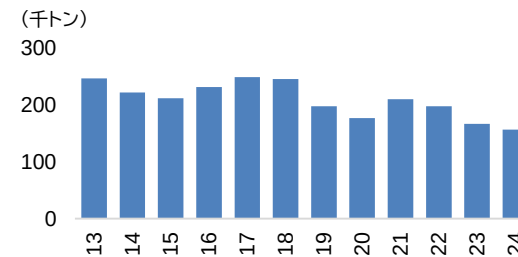
普通鋼受注



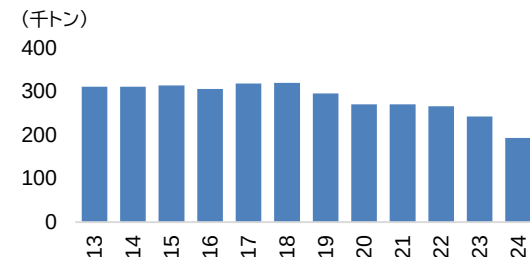
棒鋼受注



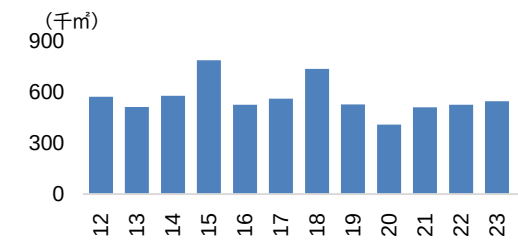
厚中板受注



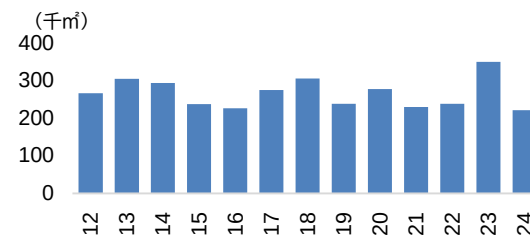
形鋼受注



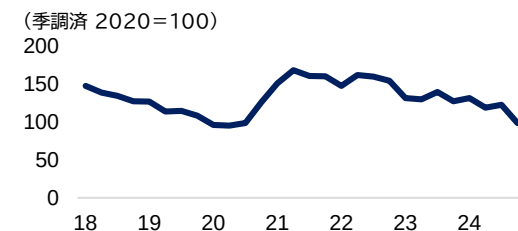
非住宅着工床面積(工場)



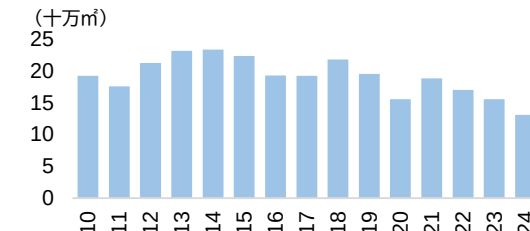
非住宅着工床面積(事務所)



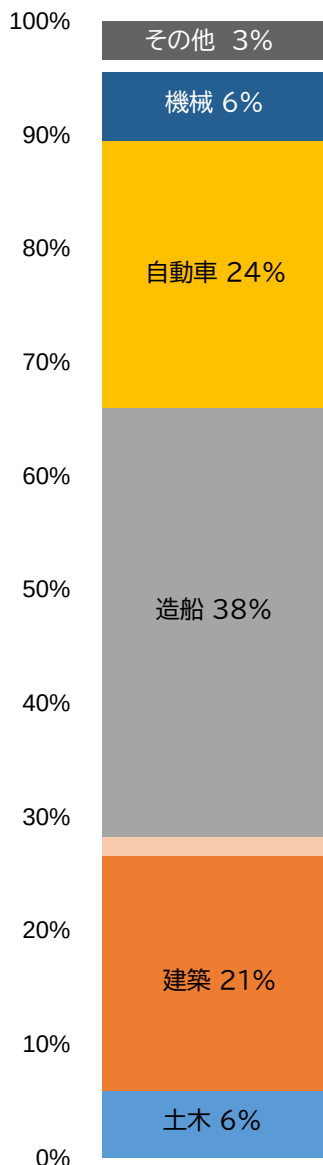
鉱工業生産指数(生産用機械)



建築物(S造)着工床面積



中国地区

中国地区の普通鋼
受注構成比(部門別)

(注)23年度の推計値

中国地区の普通鋼鋼材受注

	(千トン、%)			
	23年度	24年度	前年比	構成比
鋼矢板	31	29	▲6.0	0.8
形鋼	276	257	▲7.0	7.2
棒鋼	319	358	12.2	10.0
線材	24	25	4.1	0.7
厚中板	1,305	1,270	▲2.7	35.6
熱延薄板類	678	686	1.2	19.2
冷延鋼板類	280	306	9.2	8.6
亜鉛めっき	441	418	▲5.1	11.7
その他表処	54	52	▲4.1	1.5
鋼管	175	166	▲5.1	4.7
合計	3,583	3,567	▲0.4	100.0

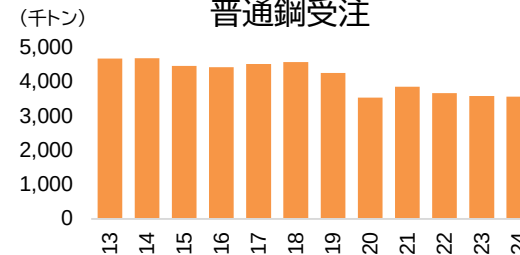
(注)内部流通分を含む。

中国地区の需要産業指標

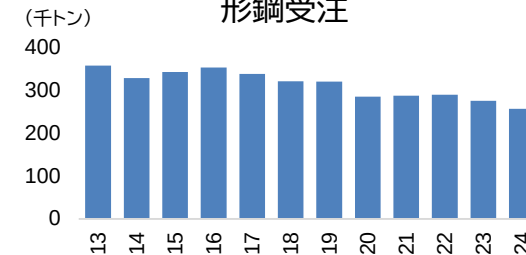
	23年度	24年度	前年比
公共工事請負金額 (億円)	9,631	9,658	0.3
住宅着工戸数 (千戸)	38	37	▲3.8
建築着工床面積 (千㎡)	5,641	5,206	▲7.7
住宅 (〃)	3,330	3,176	▲4.6
非住宅 (〃)	2,311	2,031	▲12.1
木造 (〃)	2,494	2,467	▲1.1
SRC造 (〃)	30	64	112.2
RC造 (〃)	817	681	▲16.7
S造 (〃)	2,249	1,932	▲14.1
鉱工業指数 (20年=100)	105.8	104.0	▲1.7
金属製品 (〃)	100.6	99.7	▲0.9
一般機械 (〃)	124.1	120.9	▲2.5
電気機械 (〃)	124.5	116.5	▲6.5
輸送機械 (〃)	99.2	93.7	▲5.6

(出所)経済産業省、国土交通省、日本鉄鋼連盟

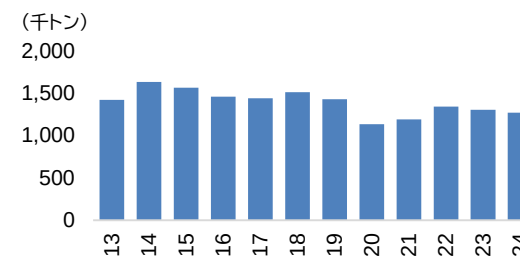
普通鋼受注



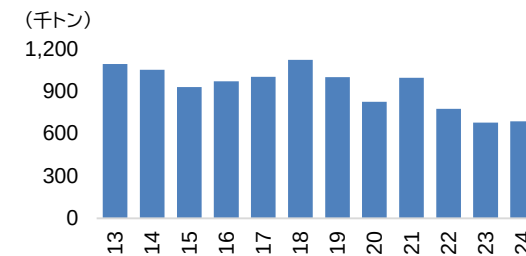
形鋼受注



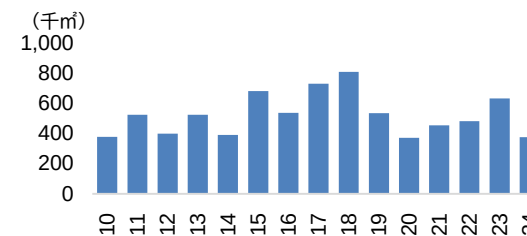
厚板受注



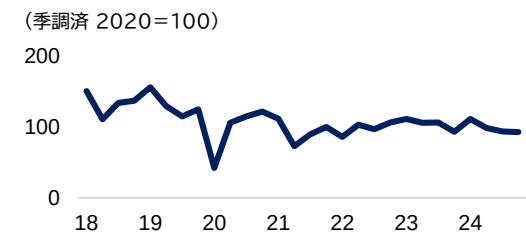
熱延薄板受注



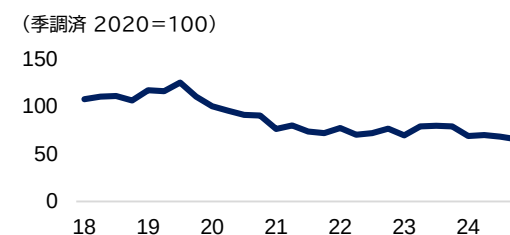
非住宅着工床面積(工場)



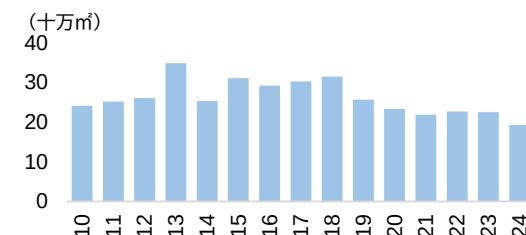
鉱工業生産指数(自動車)



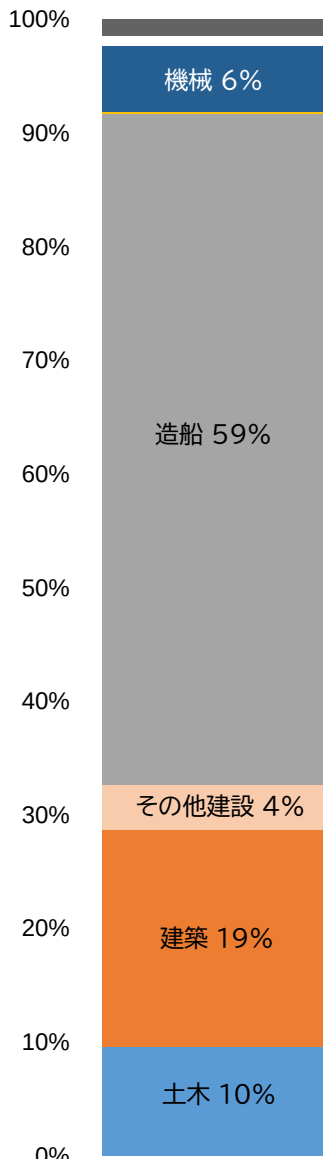
鉱工業生産指数(船舶)



建築物(S造)着工床面積



四国地区

四国地区の普通鋼
受注構成比(部門別)

(注)23年度の推計値

四国地区の普通鋼鋼材受注

	(千トン、%)			
	23年度	24年度	前年比	構成比
鋼矢板	13	12	▲6.2	0.9
形鋼	212	198	▲6.3	14.6
棒鋼	194	198	2.4	14.6
線材	8	7	▲12.4	0.5
厚中板	665	612	▲7.9	45.1
熱延薄板類	247	246	▲0.3	18.1
冷延鋼板類	1	1	▲1.5	0.1
亜鉛めっき	5	4	▲32.8	0.3
その他表処	6	5	▲18.7	0.4
鋼管	80	74	▲8.2	5.4
合計	1,430	1,357	▲5.1	100.0

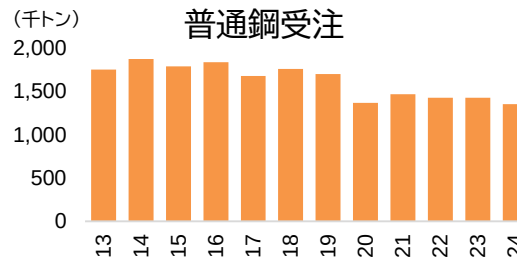
(注)内部流通分を含む。

四国地区の需要産業指標

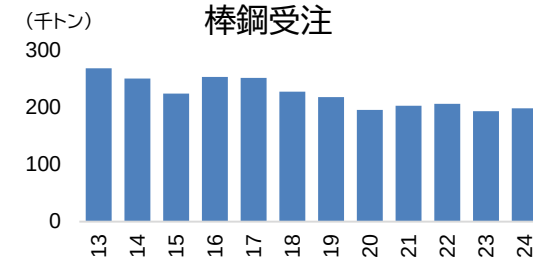
	23年度	24年度	前年比
公共工事請負金額 (億円)	5,690	5,883	3.4
住宅着工戸数 (千戸)	16	15	▲7.5
建築着工床面積 (千㎡)	2,548	2,372	▲6.9
住宅 (〃)	1,491	1,441	▲3.4
非住宅 (〃)	1,057	932	▲11.8
木造 (〃)	1,283	1,292	0.7
SRC造 (〃)	7	2	▲75.8
RC造 (〃)	279	237	▲15.0
S造 (〃)	950	807	▲15.1
鉱工業指数 (15年=100)	98.7	98.1	▲0.6
金属製品 (〃)	104.0	105.2	1.1
一般機械 (〃)	119.0	102.6	▲13.7
電気機械 (〃)	92.3	100.9	9.3
輸送機械 (〃)	94.6	90.1	▲4.7

(出所)経済産業省、国土交通省、日本鉄鋼連盟

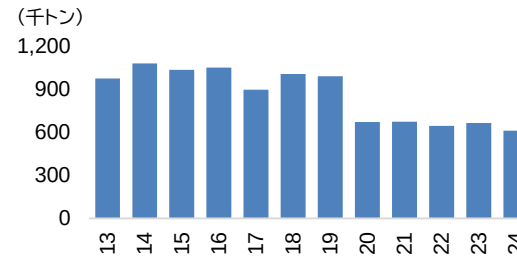
普通鋼受注



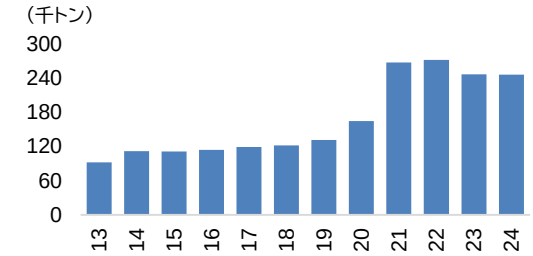
棒鋼受注



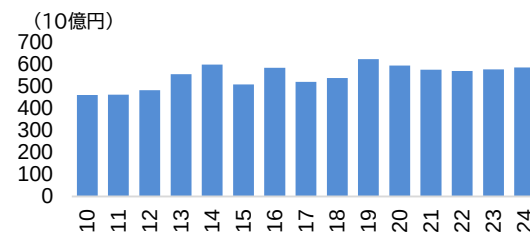
厚中板受注



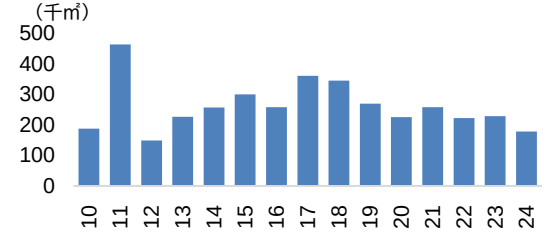
熱延薄板受注



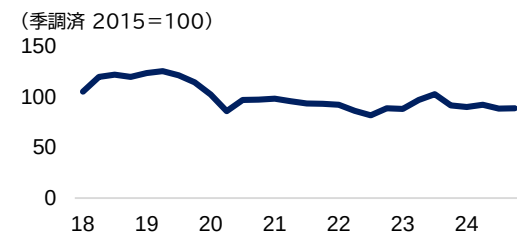
公共工事請負金額(季調済)



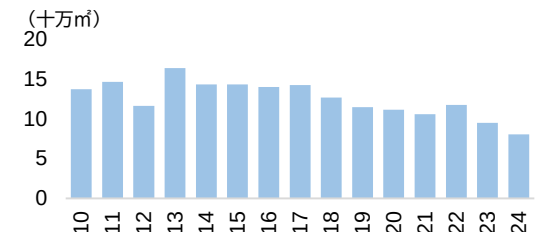
非住宅着工床面積(工場)



鉱工業生産指数(輸送機械)

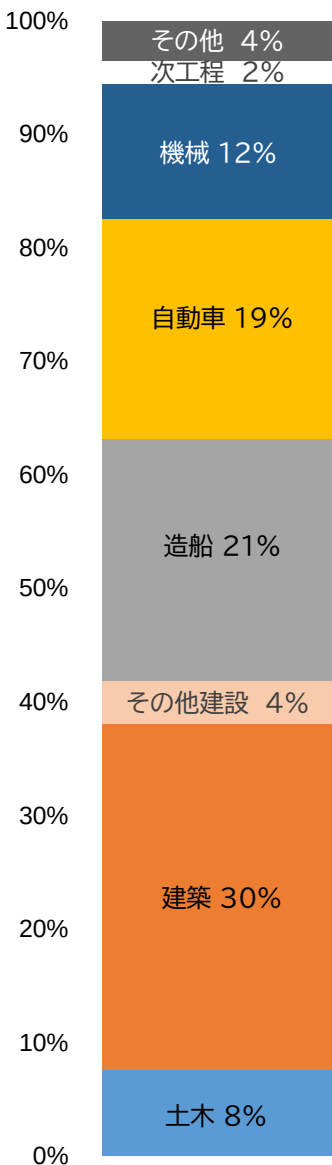


建築物(S造)着工床面積



九州・沖縄地区

九州・沖縄地区の普通鋼
受注構成比(部門別)



その他 4%
次工程 2%

機械 12%

自動車 19%

造船 21%

その他建設 4%

建築 30%

土木 8%

(注)23年度の推計値

九州・沖縄地区の普通鋼鋼材受注

	(千トン、%)			
	23年度	24年度	前年比	構成比
鋼矢板	49	28	▲44.3	0.8
形鋼	520	453	▲12.9	13.9
棒鋼	542	601	10.9	18.4
線材	66	67	0.3	2.0
厚中板	842	776	▲7.8	23.8
熱延薄板類	314	319	1.6	9.8
冷延鋼板類	307	273	▲11.2	8.4
亜鉛めっき	507	450	▲11.4	13.8
その他表処	102	79	▲22.4	2.4
鋼管	239	214	▲10.7	6.6
合計	3,490	3,259	▲6.6	100.0

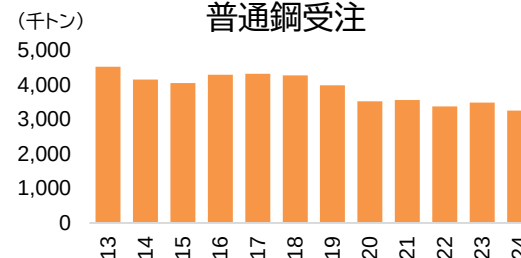
(注)内部流通分を含む。

九州・沖縄地区の需要産業指標

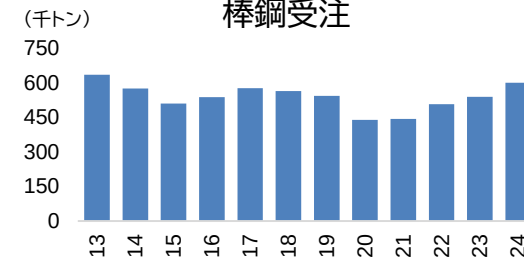
	23年度	24年度	前年比
公共工事請負金額 (億円)	25,308	22,747	▲10.1
住宅着工戸数 (千戸)	93	94	1.2
建築着工床面積 (千㎡)	12,660	12,373	▲2.3
住宅 (〃)	7,588	7,500	▲1.2
非住宅 (〃)	5,073	4,873	▲3.9
木造 (〃)	5,030	5,022	▲0.2
SRC造 (〃)	217	112	▲48.5
RC造 (〃)	3,179	3,050	▲4.1
S造 (〃)	4,108	4,079	▲0.7
鉱工業指数 (20年=100)	107.6	106.3	▲1.2
金属製品 (〃)	92.9	90.3	▲2.8
一般機械 (〃)	119.0	128.8	8.2
電気機械 (〃)	120.1	99.7	▲17.0
輸送機械 (〃)	113.7	104.2	▲8.4

(出所)経済産業省、国土交通省、日本鉄鋼連盟

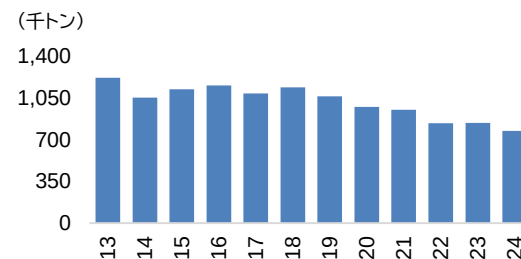
普通鋼受注



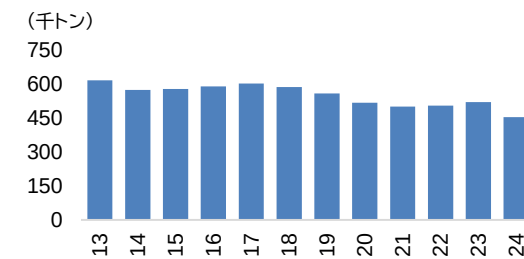
棒鋼受注



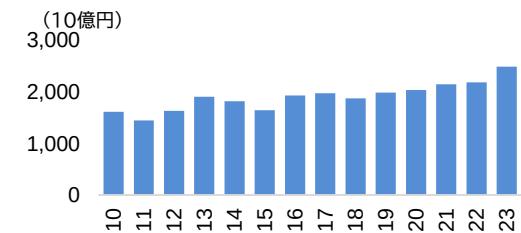
厚中板受注



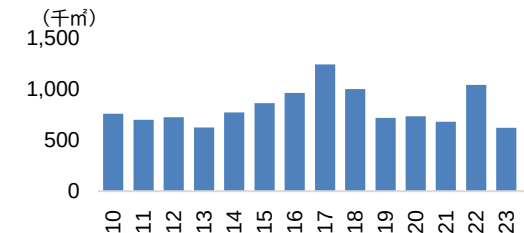
形鋼受注



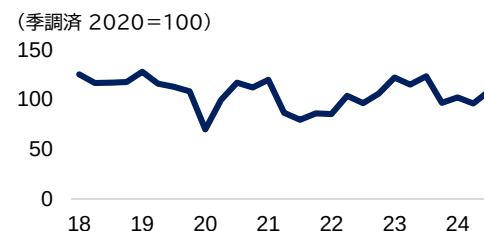
公共工事請負金額(季調済)



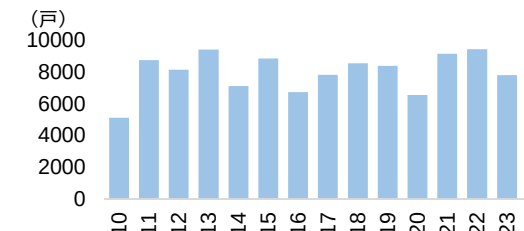
非住宅着工床面積(工場)



鉱工業生産指数(輸送機械)



新設住宅(マンション)着工戸数





鉄鋼需給説明会の案内は、メールマガジン「鉄マガ」より行います。

案内をご希望される方は、左QRコードより、メールマガジン登録画面にお進みいただき、必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。



一般社団法人 日本鉄鋼連盟
The Japan Iron and Steel Federation

一般社団法人 日本鉄鋼連盟
業務部 国内調査グループ

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館内

E-mail: chosa@jisy.or.jp

Website: <https://www.jisy.or.jp/>